

都名所圖會卷之二目錄

平安城尾

官者殿系

祇園御旅所

四條乃場金蓮寺

十住心院 深殿地藏

大雲院

祇園會銚家

同山鉾圖

手洗水圖

座頭積塔

粟河原夕涼家

同芝居

目疾地藏

宮川 鴨川の末

建仁禪寺

蛭子社

六道瑠皇寺

六波羅蜜寺

姿見の池

阿古屋塚

焰魔堂

愛宕寺

晴明社

十禪寺社

若宮八幡

五條橋

首途八幡

御影堂

鏡の池

塩竈井

本覺寺

塩竈上徳寺

塩竈社

太子堂

新善光寺

蓮光寺

長講堂

萬年寺大満宮

竹林院

鬼頭天皇

等善寺

播行半御塚

市中金山光寺

延壽寺

夕顔塚



籬の池  
 佛光寺  
 因幡茶師  
 諏訪社  
 一音寺  
 新住吉  
 天道社  
 本國寺加藤清正  
 古醒井  
 東殿  
 成真寺  
 芥根水  
 道祖社  
 藍深川  
 神明宮  
 繁昌社  
 新玉津濱社  
 壬生寺  
 荒神社  
 泮左乃松  
 人丸社  
 興正寺  
 松明殿  
 判官塚  
 月見橋  
 稻荷泮旅所  
 花園稻荷社  
 大原社  
 朝日宮  
 菅大社  
 同和玄圖  
 化粧水  
 石上宮  
 醒井  
 常樂寺  
 稻荷糸礼家  
 宇賀社  
 稻荷社  
 藏王森  
 後成郷社  
 白天社  
 神明宮  
 五条天神宮  
 蛭子森  
 松垣子  
 久雀寺  
 西本願寺  
 東本願寺  
 金光寺  
 藪内紹智家  
 不動堂  
 寛算石

春日森  
 古井社  
 三鈴松  
 六孫王社  
 福大明神森  
 古泮旅  
 清盛旧地  
 松子坊松  
 誕生水  
 人丸塚  
 采守長者  
 住吉社  
 養生門旧跡  
 満仲公誕生地  
 鴻原傾城町  
 栗泮社  
 東寺  
 大通寺  
 欽喜森

十月廿日(廿二日)誓(せい)々(々々)々(々々)  
とく(とく)とく(とく)とく(とく)とく(とく)極(きょく)乃(乃)  
官(くわん)去(きょ)殿(てん)ふ(ふ)清(せい)々(々々)群(ぐん)  
集(しゅう)一(いつ)園(えん)鴨(か)川(がわ)の  
信(しん)女(にょ)も(も)あ(あ)は(は)来(き)て  
ち(ち)ん(ん)ん(ん)ん(ん)ん(ん)ん(ん)又(また)  
其(その)夜(よ)より(より)誓(せい)々(々々)々(々々)  
立(た)ち(ち)ま(ま)は(は)祈(いの)り(り)の(の)  
る(る)や(や)あ(あ)る(る)

暖(ぬ)派(はい)々(々々)

都(みやこ)々(々々)

酒(さけ)の

ふ(ふ)し(し)と(と)謙(けん)

其(その)角(かく)





祇園寺所を四糸系極の迂小あり每第六月七日祇園會れ神樂之基  
 け所小神幸しゆひ十四日小祭禮ありて本殿(還幸しゆ)八王子とあり南の社を  
 少將井天皇と云ふ初れ二坐(大政所と號してむ)一鳥九通五糸坊門の  
 南小流後所(今大政所)少將井の二坐(鳥九條の山あり)今少將井二坐社(天照宗  
 春日明神)官者殿(蛭子藩)法入群(多)實(日)の社(多)交(鳥)尊(中)ま(あ)して(極)交(鳥)神(と)  
 悪王子社(津波町)小例あり祇園會神樂臨幸の時鳥九通  
 錦綾山金蓮寺(糸極通)四糸れ山あり(四糸道場)時宗ありて存る(阿彌陀佛  
 開基と澤阿上人之親戀地藏(運慶の作)初(熊野)社(當寺の鎮守)時宗の守護社あり  
 杜鶴松(方丈の東)あり杜鶴洛陽よりあり  
 十住心院(四糸道場の南口)あり真言宗ありて存尊地藏尊(弘法大師  
 の化)あり(條殿)皇后常小尊信ありて當院(建立)あり故小條殿地藏  
 祇園寺正賢(僧)の書(額)ありて

大雲院



龍池山云院と京極四系は南あり浄土宗ありて智恩院に屬し本尊阿彌陀佛の惠心僧都に依りて同基の貞安上人ありけ人安土論の射浄土家此宏也して信長公厚く帰依し多し江別八幡西寺を建立して貞安公は信職を時不信長公浄父子明智之秀が為る生害しゆ貞安上人傳へて多し京極に登り二条鳥丸に居る房室取のまゝとて浄菩提と吊り其後秀吉公に命じて天正の末に織田信忠郷追福のたを當院取草創しゆ此郷の法名を云院殿二品羽林仙巖居士と稱し當院の號を以て出たり信長公信忠公同向塔は所あり信長公安土浄土城の射貞安上人七種の奇物取揚り今當院の什寶之具中不法然上人の一枚起清文あり是一體和尚に寄り真繪巻あり圓の達広大師の後向れ画あり其讚ふ曰

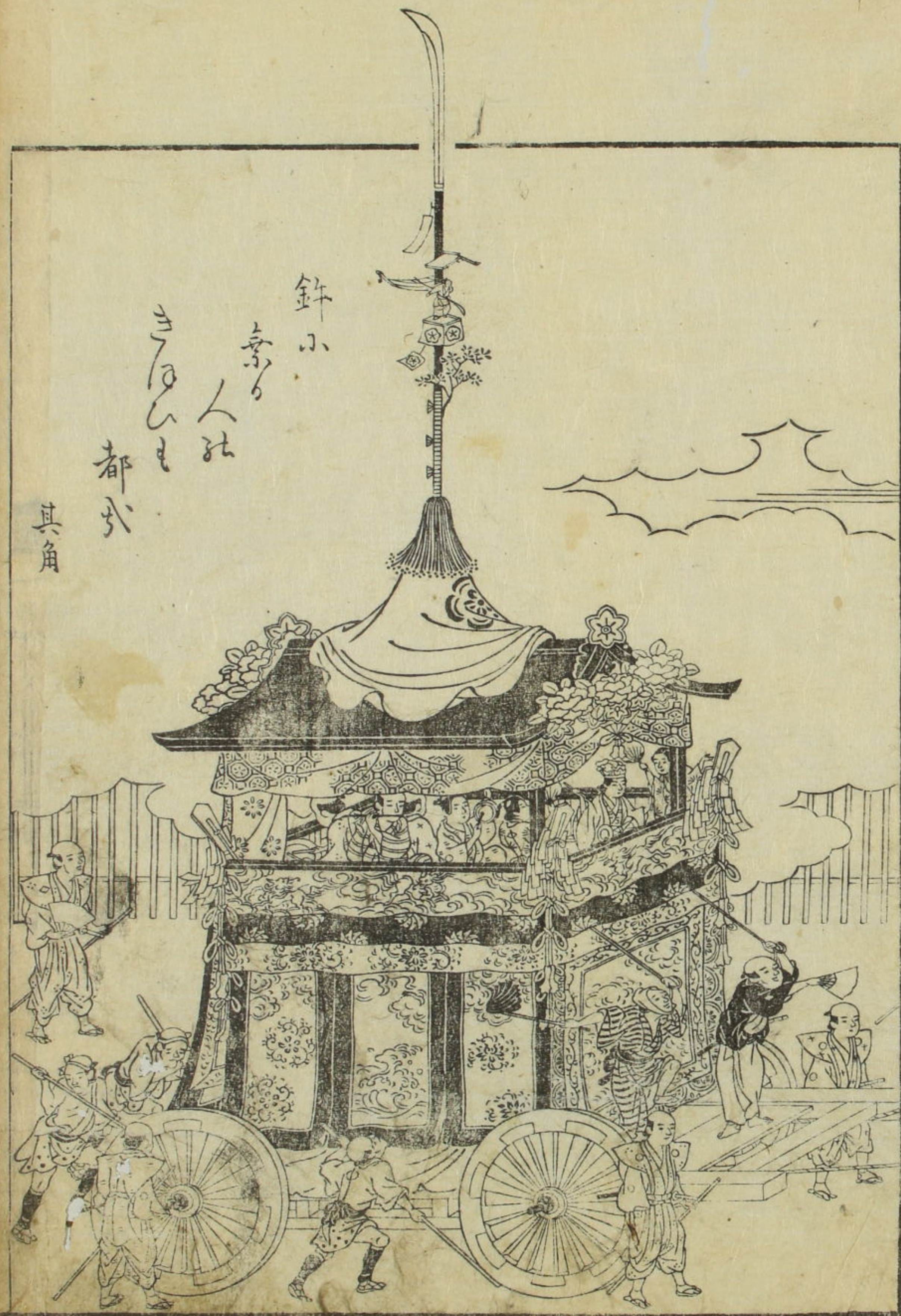
達広悟りしうらみきり胸の何うと  
 なるて門もむらあらうのの那

九十年とせしすうあむむる多れ祇の射浄院の一舞  
 一體判

佛所所さぬ

祇園會の系式は杯毎季五月朔日致齋より四系浄徳町小村とて是乃華表の旧地あり同廿日の吉符入り鉾の町々小難子初あり神樂は同晦日ありて御近挑灯煉物の行旅艶々として洛東の娘は六月朔日鉾の児祇園系として系物ありし驛馬とて具行烈花祿とて高貴の性未ふ修り五日を鉾の引初日の早天とて六角堂小井のくく鉾行列前後の園取あり此日の夕々とて宵宮鎊とて鉾と系日のめくからる挑灯とて連て夜更をもと難ふありと貴勢れ群集へり方あり七日祇園會とて外の外あり鉾烈とて四系通より系極と南へ松系西へ引渡とて日神樂の系末の并りて感神院より御旅所へ神幸あり又八日より十四日鉾の堂ありて十二日れ初園取あり十四日れ山鉾の二條通と東系極と南へ四系西へ引渡とて神樂の系式は浄旅所より四系西へ東洞院より神樂の南へ引別とて後から二條西へ又旅社あり同烈し二系東へ還幸しゆ同十八日小浄洗とて晦日等祇園鴨川のとより竹葦れ如く群とせり

山鉾の圖の二と等々今圖創系古實の次第は祇園會細紀より



會之園祇



山鉾の式一ありて  
 名も異つては所の定  
 舞大舎人の笠懸舞所  
 の跳舞家とては車風流  
 れ造り八撥舞舞かど  
 つありて莊も鹿微あり  
 今も和漢に錦鋪とまよ  
 七玉と飾先外莊嚴ま  
 して天下第一のまねも  
 いなり



家集  
 かごんさん  
 山名尾の  
 長た日ぬ  
 神の園とを  
 夕入あらん  
 鳥家







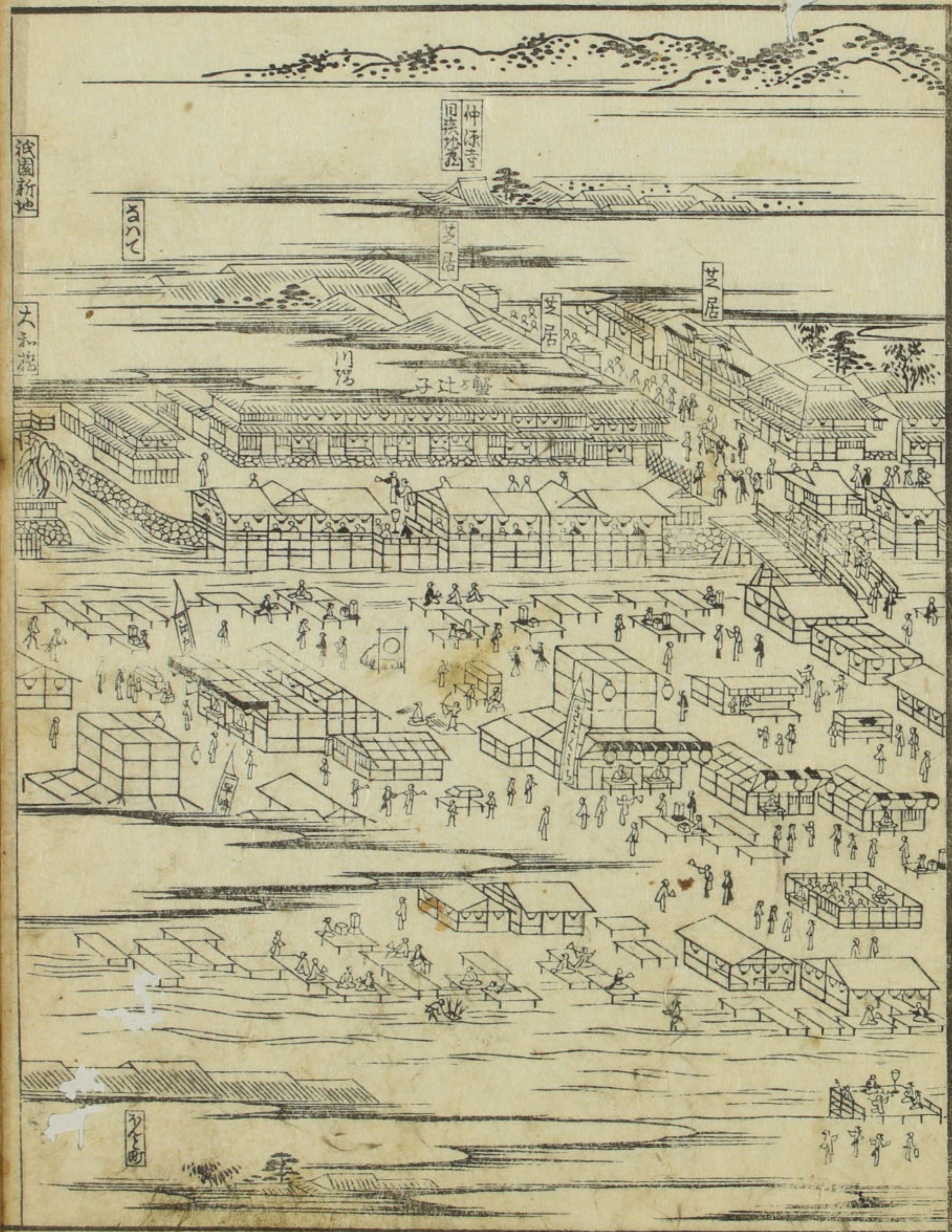
手洗あり  
 鳥丸通綿  
 小浜れ小  
 ありむろ  
 大政所町  
 祇園神樂乃  
 御旅所あり  
 糸消の輩  
 ありむろ  
 け例より



今も六月  
 七日より  
 十四日まで  
 井坂  
 水所と  
 凄冷  
 清水にて  
 比類あり  
 け水取服  
 疫取  
 のごり

坐頭積塔といふ人王五十八代光孝天皇の娘宮雨夜内親王清眼盲にして  
 之り洛中の女に亡首者致して清伽致せり勢多し賤きまに宮たすし清前  
 小任公をり清前といふ風儀なりそなり男子の盲人も宮致揚々  
 身及と称し檢校勾當の官に任じり多し内親王よりれ遺風あり  
 毎来二月十六日ハ姫宮の御祥忌なりば座頭集を致りて尊經公  
 拜一東北河原小出に石積で報恩とあり石積塔といふ又六月廿四日小  
 集會とあり赤い石積座頭の納涼といふなりたれも則清吊りとりや  
 今ハ高倉通五條坊門の小集會所ありて二箇の積塔とあり會一々  
 琵琶張弾して平家張りとりやめこれ例なりて此法甚な勤なり  
 又雨夜内親王云々といふハ後の瀬飢のまゝにありんる故不便  
 ありしをり洛陽の女牛小長夜とて書りせり今京なる所を  
 又いふありしをり洛陽の女牛小長夜とて書りせり今京なる所を  
 ありとて  
 雨夜内親王の傳事王代の  
 系圖に分りて後考あり

四條河原夕涼ハ六月七日より始り十八日終り東西の音樓あり川邊に  
 床は儲け燈は星の如く河原より床机とほりて流さる夏夜僧一濃此京乃  
 帽より河風小翻翻して色も夏夜月月のめきも押しとありて扇  
 のふりありてみややれどもいゝきもしてありせどるるに妓婦  
 此今夜盛といろろて茶器も及らる粧いも園鹿射ははやくは薫る南ハ仍  
 北ハ仍漁業の店小体とありて吹のり香酒と醒一香煎又鴨川の流れ  
 致ぬんて京のあり輕致賞一ゆり吐ハ晋の郭象も勝て懸河に水致  
 注が如物ま似ら函台園も押しぬる猿狂言のすまも曲馬曲枕麒麟れ縄  
 渡ハ鞆鞆れ傳りて噴吐れ聲ゆきもをたれ店ハ龍水溜々と流り暑夜遊  
 硝子れ音の珊珊と硯して涼風ともく和漢れ鳥深山れ猛獸もありて  
 觀と歩物群とありて川邊に遊宴するも所狭川の例ありて小蠟か灯籠と  
 牛頭天皇の獲氏將末小教ありて遺法なる也  
 昔大内氏ハ附群臣一同一  
 相替りてあつたりてて人致る  
 相替りてあつたりてて人致る  
 牛頭天皇の獲氏將末小教ありて遺法なる也  
 昔大内氏ハ附群臣一同一  
 相替りてあつたりてて人致る  
 相替りてあつたりてて人致る



四糸川系をこめて夕月夜のあらあり  
有明の海鳴すく川中より舟をさるる  
舟の帯のむすびめいりくたこの羽織  
あかき着かして法師老人のふたふた  
わぢやれ髪ふみすてとれたててこいひの  
あつことさふ都のりきるうん

川風や流うた着るる夕月  
芝居を四糸鴨川の東より永禄年中江別れ浪人名古屋なる  
とつとつの出雲のお國といふ風流女とくくし  
けく男女立合の狂を依仕組小孫の本林祇園の南林の  
河原橋に面え興行しるる秀吉公伏見城より上洛し  
物群集し坊ふ乃と故小四糸の河原より其後中絶あり  
承應二年村ふ又を場といふ四糸河原中絶して再興し又繩手  
四糸れ小川りて遠く寛文年中今地ふりて常市芝居とあり  
仲源寺の四糸大和太極の巽の角あり澤土宗ありて智恩院に属し本尊

地藏菩薩の土中出現の尊像あり一説は定朝世の人目疾地藏と稱し眼  
病平癒し祈禱とてい霊験あり實に雨止地藏之住來れ人驟雨の時堂  
宿りしと脇士ふい惠心僧都れなり阿弥陀佛の南方に安んずる  
の化れ千手観音の北の方ふる業師の方ふる安んずる弘法大師の  
宮川といふ鴨川四糸より南に別號ありむらけは高王の廟あり  
後世人家建續て町の名とせり

東山建仁禪寺の和太極四糸の南ふあり  
五糸れ第二位ありて開基の千光國師尊上僧正諱の榮西といふ禿の備中  
國吉備津の人ありて賀陽氏の陸別れ刺史貞政の曾孫とて建保三年  
七月五日寂し七十土御門院に勅願して征夷將軍源頼家郷敷地を  
寄附しぬ建仁三年伽藍を造栄し勅願するより号して千手院  
以て寺號とせり佛殿に本尊の釋迦佛脇士の迦葉阿難あり阿彌陀塔あり  
興禪護國院と號して東に五糸あり榮西國師に廟塔あり又國師の廟あり



愛宕寺

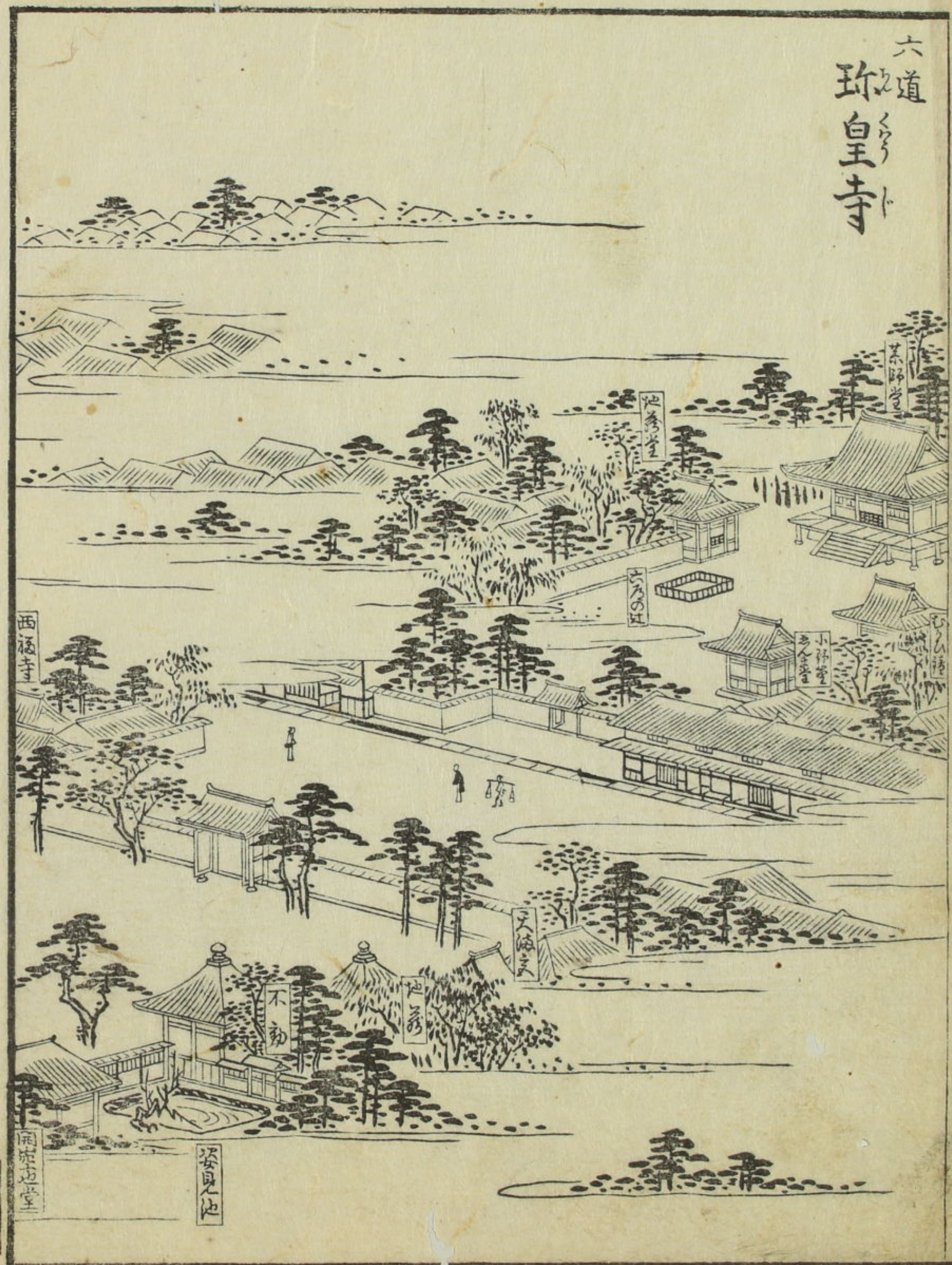


歸朝の時携りて一葉提樹の當院あり今般羅殿とて河原院の佛殿の  
 小一の鐘堂あり東に大鐘あり足融大僧六條河原小殿舎延建の後佛  
 閣とて河原院と号けし所あり鐘を荒廢の後鴨川七条の南に深淵  
 小沈む柴西國師足融窺ひて官吏小訴を求て當寺に掲け鐘を刻  
 引上る耐更小動は鐘を國師にせしむとて力者大勢足融を拜しとせむ  
 師に弟子長首座と呼んで引登りと教め力者大勢足融を拜しとせむ  
 と當寺小のいと今重き物引よは多依呼て運送とるは所謂なり又鴨川七条の南七町  
 又け鐘毎夜子れ時より九十九聲撞く晨夜み十八聲之合て百八撞く昔に陀羅  
 尼經誦して撞くゆに鐘を依新て建仁寺に陀羅尼の池に法水池と  
 號し中門と名立門と呼ぶ平家北一門脇教盛銅禪居房の摩利支天と安  
 金及加曆二年唐土より將來せし靈像之應驗新りて妙徳石方丈の焼香橋浴空  
 の石橋樂神廟を國師に勧誘して當に鎮守之御前中玉吉徳津之の第三神樂  
 安國寺塔方丈の織田右樂塔正徳院あり則有出翁の塔あり

六波羅蜜寺



六道  
珍皇寺



蛭子社（建仁寺境内の寿海）建仁寺境内の寿海 蛭子社（建仁寺境内の寿海）建仁寺境内の寿海

等覺山念佛寺（西より）西よりあり 當寺より寺りて世人愛宕名寺と稱せ

真言宗（用基の弘法大師中興）千観内供之本尊觀世音千観の化

身（左右の脇土の毘沙門地藏尊）千観内供自他の像と安んじ人姓攝氏

相列の刺中納言頼顯卿の子（幼名源千観九）成長して叡山運照

内供の室へ入て出家（顯密の碩学）ありて世の回常（六字）佛號

修（とる）止（す）事（は）故（ふ）念佛上人（又）堂内（小）地藏尊（安）を

係（と）伏（せ）地藏と稱して（毎）春正月二日（紐）と讀（て）法人（伏）の（れ）と

並陀洛山六波羅密寺（六道の西より）真言宗（ありて）相續院（属）を

十一面觀音の立像長を（丈）空也上人（の）化（て）西國（十七）まれ所（又）洛陽傳（り）曰

村上帝清（宇）王曆五年（小）疫癘（時）行て（死）との（ぬ）る（は）空也上人（の）化

隣（の）十一面觀音像（と）作りて（車）小（糸）洛中（故）自（方）牽（あり）たる（小）當寺

本尊（之）觀音（小）供（とる）典（義）依（疫）人（小）あり（の）一日（小）平（愈）村上帝（あり）と

ゆ（り）て（各）例（と）毎（歲）之（小）服（あり）の（小）万（民）今（は）例（と）り（て）名（取）王（服）と

號（し）年中（は）夜（を）免（る）と（り）北（の）方（は）地藏尊（安）を

と（り）康（頼）の（寶）物（集）小（日）東（土）の（食）た（女）あり（たり）康（頼）は（地藏）尊（依）信（し）たり（は）女（子）を（老）母（と）事（す）と（り）あり（たり）康（頼）は（地藏）尊（依）信（し）たり（は）女（子）を（老）母（と）事（す）と（り）あり（たり）康（頼）は（地藏）尊（依）信（し）たり（は）女（子）を（老）母（と）事（す）と（り）あり（たり）

南（は）方（は）茶（師）佛（と）安（室）及（伝）教（大）師（の）化（て）用（心）堂（の）丈（上）人（自）化

阿（古）屋（塚）本（堂）の（中）あり（は）茶（師）及（伝）教（大）師（の）化（て）用（心）堂（の）丈（上）人（自）化

空也上人の（を）祀（す）て（ん）神（と）なり（と）我（れ）に（ま）た（し）神（と）なり（と）



上人あはれはなめて  
世の中りてふれるの雨やうつたの位かよ本世よりたり  
拾遺 一尊もあまのそ佛は人のまはれふのほくぬいふし 全 空也上人

珍皇寺の建仁寺の南松原通あり 六道を 本尊茶師佛の傳教大師の位にて

田基の慶俊僧都中興を弘法大師筆堂あり小野皇後像と安楽石あり  
眞土へ通 焰魔堂の東方あり遷葬の七月九日十日糸指に人け遷葬す  
て聖霊遠近しむと六道は 本堂の 當寺久代平安城に葬所あり桓武

天皇延暦十二年小長園をけ系はるのそあり耐け所と後人の葬所あり  
定めあり由近都記より云々後愛宕と云々 源氏物語に桐壺の更衣は  
葬すやと云々

北斗堂あり一六道の東武町北斗あり北辰城ありと高燈籠あり  
うけり城南淀川の回船運送の目當常夜燈と云や久熊野に謡曲あり

北斗七星の曇るはと風六足之應仁の兵火ふたふ 一年金木村宗相に府あり  
北條の倒して苔は埋へた寺僧ふたふけ  
吾妻の斎物として今うは世の物館あり

晴明社宮川町の東松原の山あり古は地は安陪の晴明の塚ありしが  
新道の人あな用ふ及んで次第小塚崩と平地とあり故小社は建て具是とあり

十禪師社を晴明社の南ありむの境田地廣くと樹林本林とあり牛あり九  
井林に隠れ千人斬ありと武藏坊毎度には神ありて主述べと云

若宮八幡五条橋東五町あり所清水と同神之初は六条佐女牛  
小あり故は佐女牛八幡と號は 例系は八月十五日放生舎あり舊地に石を通 今北條  
六条の奥欄通の南ありの裏小社ありと云

五条橋を初は松原通あり則つてへの五条通之秀吉公の耐け所ありと故は  
五条橋通との實上條坊門の欄干は紫銅擬寶珠左右十六本ありて

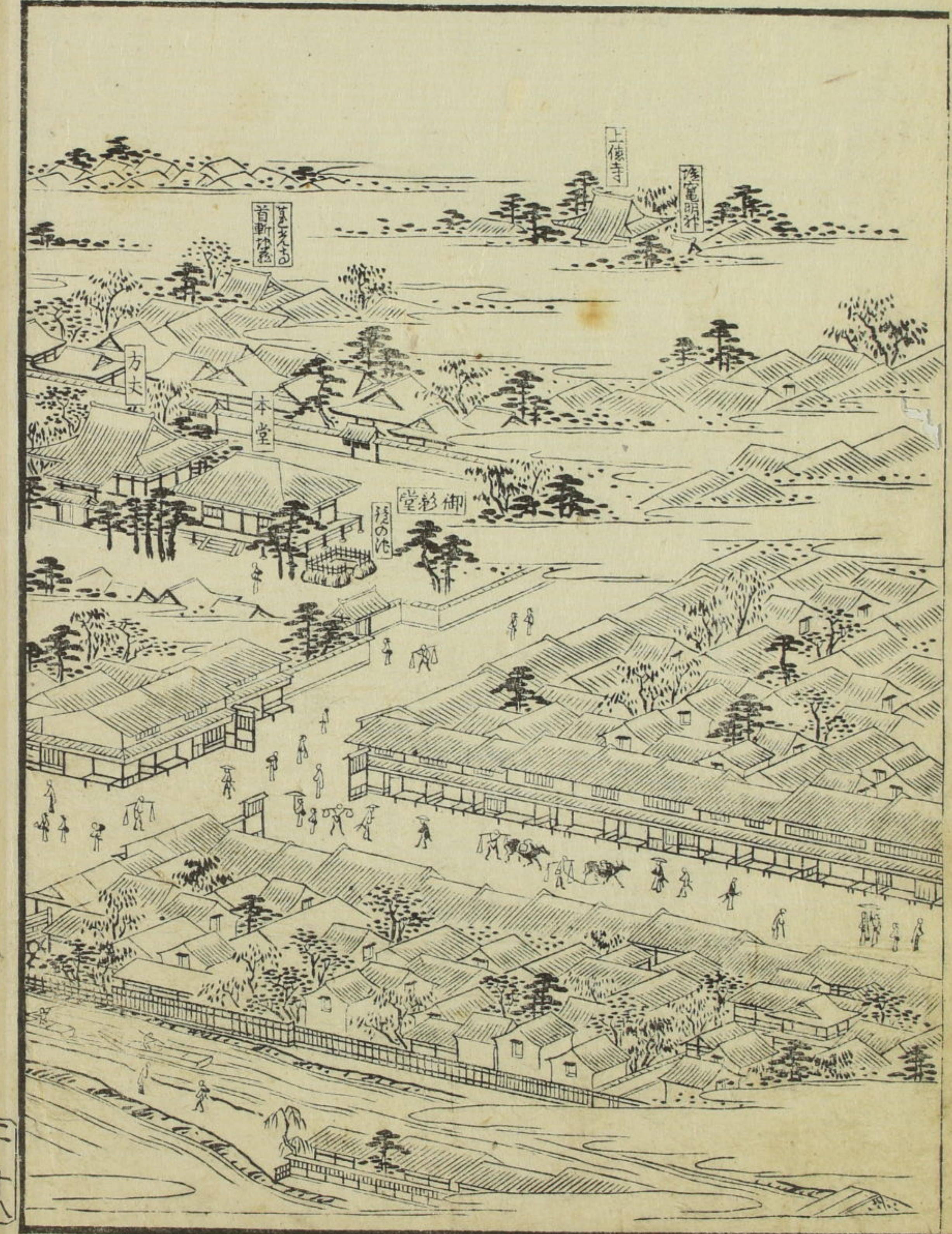
水の方西より四ツ目小橋の銘あり 雜陽五条石橋正保二年酉十一月吉日  
奉行 芦浦 欽音 寺 舜典 小川 藤左衛門尉 正長

此橋上は半より東より白の橋本の勝地本の向くは平安佳系ありと  
浦園者とくは夜とくはとくわふと云





五條橋



松豊八幡宮の五條橋西にあり首途八幡と稱し清和天皇は清宇貞觀年中  
創創なり其後皇太子貞純親王の佛靈依系親王の息六孫王經基公尊  
崇仰りて宮殿樓門嚴重再建せし封境廣大あり外封あり十二門あり  
新善寺佛影堂の首途八幡の西あり久代天皇長年中極林皇后の建立あり  
開基弘法大師之中興王阿上人真言宗改て時宗と号するなり阿弥陀仏  
の安阿弥の化有り初の本寺の信濃善寺の如來と号し依りて存するなり 脇壇あり  
一遍上人の像王阿上人の像と安方丈の存するなり二尊ありて阿弥陀観音勢  
至弘法大師の化則後醍醐帝佛會持佛之鏡の池塔竈井を堂に南におよ  
地藏堂の方丈のあり當寺始に東洞院春日あり極林寺の別所あり承安年中又  
上東洞院よりと應永八年佐女牛重町の心より享祿二年又系  
新町の心より又正坊中小の廟ありて業すするなり昔は友方寺平敦盛の室蓮華  
十又年北地よりなり 院尼公此寺に閑居し阿古女に扇を制しなり其後後醍醐帝佛靈ははた  
當寺の信藏祐寛阿闍梨清心除滅の修法に加持し之廟を咒文に封納して  
帝心より即平愈はしくなり皇太子の清所當寺と再興し別髪あり王阿

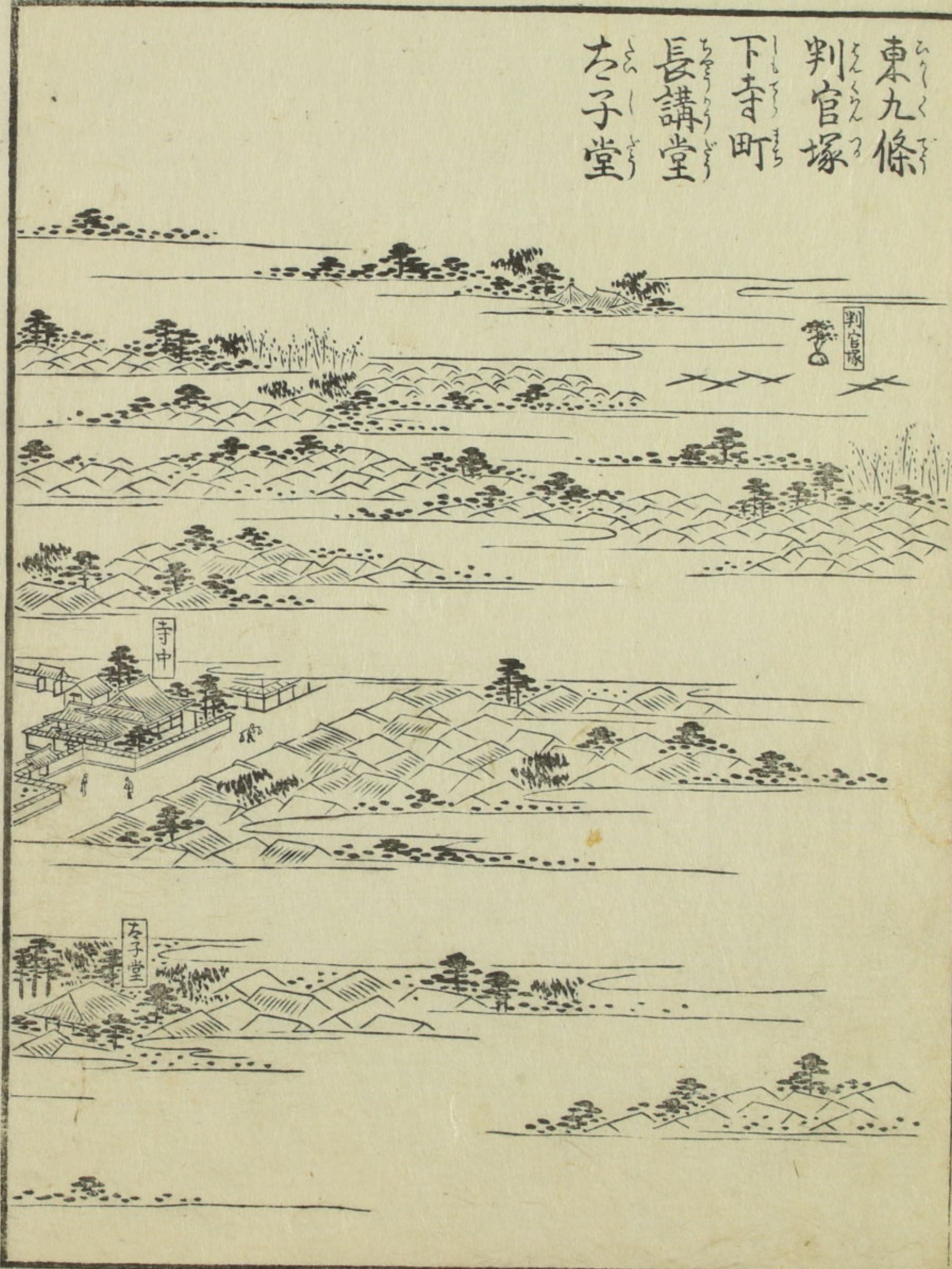
上人と号する廟は古例よりて世々名をわたり高貴に献して都鄙に賞  
祝とあり

河原院の旧は五條橋通万果寺の東八町四方あり鴨川に殿舎あり 其所に融花舎の  
別荘ありて墨田水石風流を以て遊蕩れ美を擅しなり築て草本殿系あり  
四時をた絶く池と鑿て水と湛へ奥鳥の池小戯に陸奥の松島にあり那波津  
より日毎潮と汲せ管絃の仙臺小調之籍の月殿小歌ひあり大匠堯ありて  
後寛平法皇は勝地を遊覧し東六條院と號を具後佛圖とあり融花舎  
三の佛子祇陀林寺の本主仁康上人より知識をとりて大これ釋迦佛と化り  
ては院を安並しありぬる院と號する今又條橋の南鴨川高徳川の向ふ本林あり  
なりぬる院の敷とあり河原院の是なり  
古今に君すこと煙絶し一垣竈乃満るいんをほりぬ 貫之  
後拾 垣はありつるふらんぬるなりとありぬるいん 業平  
奉賞寺の下寺町又糸の角小あり淨土宗ありて智恩院に屬する尊阿弥  
陀佛の安阿弥の化一名如法佛と號を開基の玉翁上人あり

本覺寺



東九條  
判官塚  
下寺町  
長講堂  
右子堂



塩竈社の在りて西上徳寺の鎮守とあり所融た在りて則塩竈と  
號を本尊阿弥陀佛の八幡の他用基の傳譽上人あり

太子堂白毫寺の上徳寺の南あり 速成就院 宗首の律宗ありて在り聖徳

太子の佛自他の南無佛の像長き人余之脇壇の四天王の唐化ありて

用基の忍性律師之舊知恩院中門の北浩玄院の後あり 今其地小古井  
みろく水と號を

慶長年中知恩院再建の時ありて

來運堂新若光寺の在りて南小あり本尊阿弥陀佛の信濃國善光寺と曰一

祿多の在りて國義助如來の示現と蒙て百淑之像齊明王の同浮檀金七斤と爲て

朝一如來と鑄て爐壇と據たり其之中あり分身の像ありて是の在りて

負別阿弥陀佛の來運堂の南蓮臺ありて本尊如來復年中に東國の僧都小ありて

佛工安の在りて阿弥陀佛の像ありて像成統歸らんとす耐安阿弥陀佛像希代

ありて是の在りてみ今度拜せんといふ幕ありて廻る小科卿とて追つたけ青と清み

の僧則後と用ける尊像分身して二尊とあり一人は異のありて一人は

東西肩より別々其地後今小科の肩ありて安阿弥陀佛の像ありて在りて

馬止地藏 當寺ありて仏の像ありて中埋れは耐平法盛野とありて通りける途に止進まは不後とあり

後白河法皇の在りて來運堂の南長講堂ありて當寺の法皇は清建よりて時清

幸ありて貴賤と論せは殿前と達と亡魂と名帖と記しぬ日常に清回向ありて清

と修めり所之故小長講と稱たり 平家物語に自らは後白河法皇の長講堂の過去帳も妓王  
妓女佛刀自等々尊嚴と四人一所に入られり

萬葉寺の天満宮の長講堂の南あり初の間所乃羊寺通の南ありて

鬼頭天皇の在りて寺の東南竹林院の堂内あり 正安二年の長法見院は小山寺あり  
耐水面を名を記重清供奉朝考と

の官女とて初連理のありて是のありて又八重姫の相考ありて嫉水食と断て死と

重清よりは名菩提の種ありて出家の遠記依て二鬼の結ぶ結ひ苦樂坊と號ありて

檜行平郷塚の竹林院の南ありて寺あり 忽平愈と功はありて共ニ佛一未代具證とて頭とありて鬼頭天皇と號たり

市中山金寺の時ありて在りて本尊阿弥陀佛の定朝の他用基の在りて上人

本願寺境内ありてありて地買人の市比賣社 當寺ありて是の在りて 天真井 本堂の西あり  
後陽の之水あり

延壽寺の金寺の在りてありて在りて釋迦阿彌陀之像銅佛とありて

初に神小僧ありて  
あり今金銀あり

夕教塚へ五条あり  
 今れ塚町松系れあり  
 源氏物語ふあり夕  
 うほのあし所ふは  
 くらうしひはり

新古今  
 夕のほと  
 よあ

白露れ  
 かさけ

とれろ  
 あゝのこわ

ほのくみへー

夕教の花

前老政大臣



離の池い高倉五條の南宗仙寺の堂前まある井とてい舊河原院の封境うて

其遺跡より當寺の曹洞宗うて開基の天江和尚本堂の額ハ  
正水に字とて

藍染川の五条高倉を經て間之町より人家を下を南へ流る濁水より是も河原院れ名  
かといひ傳へ

花開稻荷社に松系通高倉の西あり稻荷町  
け所ハ松永貞徳公羽が居所うて

俳書所傘板撰と

古宅五春といつり故五条花開のまある川こそ  
 おの川より海坂門の松よみてあれらる宿れまあるの那 貞徳

五條花開の宿よ會をーよ夕由の板  
 小車れせりのれららとらありありとせと我ふ夕教の花 全

又条の宿よ七差想稻荷の社れあり  
 吾人のけをたての陰まきとけ所ありをえ  
 とくといひけらめとあまのけらありて

弟代せりののやーろれ表社にたてられたれとれら

俊成郷の社に松系通鳥丸の南人家に後ありある所五條に俊成郷の靈は所々の郷  
の宅地あり

新古今  
 夕末を我れも思ふがやわんむうとあふをうしり 俊成

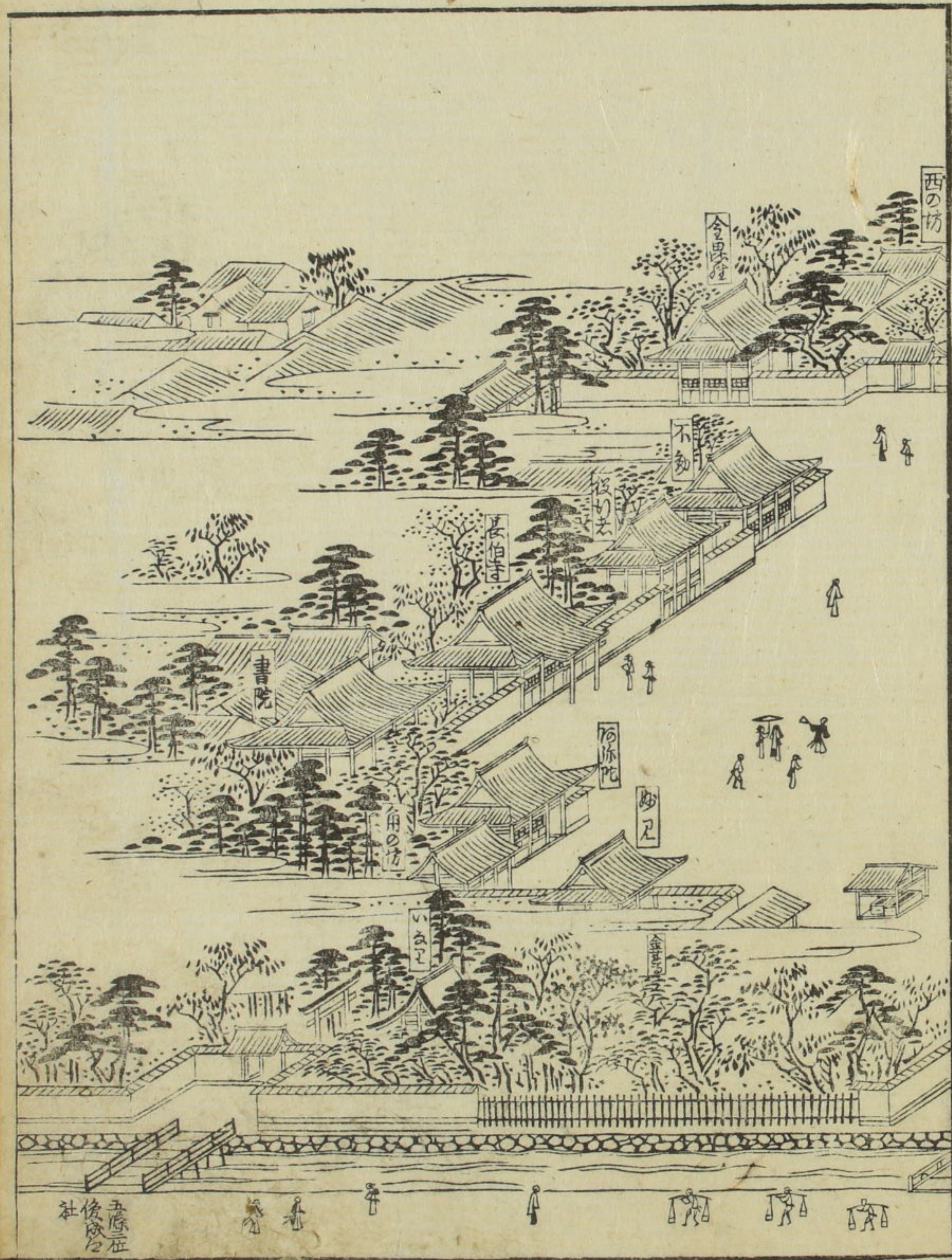


佛光寺



汁谷山佛光寺の五條坊門通あり初興寺家上親鸞聖人の弘法して佛光寺  
祇と稱す本堂より同山親鸞聖人自化の淨教を安んじ長らく阿彌陀堂なる  
の像の阿彌陀佛と安んじ長らく慈覺大師の化して本尊の後醍醐天皇は佛光寺  
盜賊寺肉丸の尊像を奪ひ逃るとも重くを詮方なく二条河原に投棄て  
去れ其夜より瑞光を放て帝國を映照し百官のれとあやむ帝光の初出と爲  
させのよゝ弘院の光明より勅使警て尊像を帝に奉り宮中安置其後興正  
寺に遷座し寺号改佛光寺と改て勅額を福の又宸筆を添られて親鸞聖人の  
繪詞傳と書しあひ專修念佛の棟梁と爲る論旨と福の阿彌陀堂の脇壇より聖  
徳太子自化の本像法然上人自化の像と安んじ餘間と存覺同く本願寺  
第三代覺如上人の息存覺上人あに富居し六要抄四部九帖等を撰しあひ  
當寺の草創に親鸞聖人四十歳の附し別と林郷東野村に建立し興正寺と號  
し徒弟の上足眞佛上人に附屬し其後五条西洞院九條殿下兼實を以別社  
花園寺と聖人ふの附して花園院と号し興正寺に院號と爲り  
九十四代の帝花園院の傳時殿

感て後醍醐帝の佛宇之應え年ふ當寺を以て今比叡竹中床汁谷を移と  
改む東に阿彌陀峯限り西に柳系ふ至り今七条河原南に菅谷限り北に汁谷大路不  
至る具後足利尊氏公の祈願寺として佛供田を寄附しあに累より宗の繁昌  
し尊信に僧俗諸國ふ充滿し塔頭四十八坊ふ及び然る文明年中當寺十安  
の住職經豪上人の科を禪寺蓮如上人に屬し寺僧四十二坊具外國の門法  
教輩隨順と故に經豪上人は舍身經卷上人當寺の住職と十四世相續  
し所在の六坊今寺内秀吉公の附し大佛殿建立しありて地は移と  
四條之賣の四條通東洞院とありむのし大内裏の附し所法品取高市  
場今毎朔高倉四條のゆよ野草の市を舊古の餘風を  
神明宮に綾小路高倉北西よりありあり所併勢内外を神宮あり  
大原社の綾小路新町の東よりありあり所併併冊尊あり丹州桑田郡大原社と曰神  
高樂道場といひむのし一条の南新町と西洞院の間にあり今高樂道場といひ  
白大神社の東洞院と爲丸の間にあり竹之辻といひ法香庵と號と



因幡堂平等寺いんぱんどうびんどうじ松原通馬丸まつはらとほまわらあり寺勢じせい天台聖護院たいたいせいごえん浄土寺じやうどじ僧道そうだう  
三言ふあり本尊業師如來ほんそんごうしにょらいの立像たつざうあり長六尺二寸ちやうろくしちふたすん其名盤なひたの上のうへにあり人眼ひとめ士し  
の日光月光十二神にちかうげっこうじふにしん八菩薩はつぼさつと安坐あんざなり傳記でんき曰いはけ本尊ほんそん天竺祇園精舎てんぢくきえんしやうが四十  
九院の内東山の角くわう療病院りやうびやうえんの本尊ほんそん等又らうまた海檀木かいだんぼくの像ざうあり釋尊しやくそんの心こころ刻きやく  
のの聖容せいようありかの伽藍がらん破壊はくわい小及んととの耐東方たいとうほうよりて飛去とびさりたり  
一條院いちじやうえんに浄宇長徳二年じやううぢやうとくににねん因幡國いんぱんこく賀露津がろしづに海面うみづらより依りてあり園司そのし攝行平  
郷せうきやう漁人りしよじん命いのちして綱なわとちりて先海せんかいを依り潜ひそりてあり之明このあき赫奕こくやくたる業師ごうし公こう引上ひきあ  
奉ほうる其後七年そのごちやうねん改經かいけい長保五年ちやうほごねん四月七日しがつにちしちに行平郷にぎへいけうの居館いけん馬丸まわら高辻たかつじ小及こわたりて  
飛去とびさりあり後光聖座ごこうせいざ因幡州いんぱんしゅう止とどまり則すなはち館くわん依よ佛ぶつ閣かく造つくりて安坐あんざなり今いまに因幡堂  
あれを預あづかり行平郷ぎへいけうの息光朝そくこうてう禪師ぜんしあり刻きやく寺勢じせいなり承安元年じやうあんげん四月八日しがつにちはち高倉  
院たかくらえんより勅額ちやくがくとあり平等寺びんどうじと號なづけ永曆二年えいりやくににねん以後いご白川院はくせんえんに所ところあり幸さいなり今いまの  
堂だうは足利義教あしたしぎきやう公こうの再建さいけんなり攝行平郷せうぎへいけうの系像けいざうに堂内だうない西の間に安坐あんざなり其の同  
又また一夜いちや又また社しゃとあり後堂ごだう井戸いどあり鎮守ちんしゆは後白川帝ごはくせんていの院えん宜よろふよりて十八所じふはちか社しゃと

勅清ちやくしやうに後ごに社しゃ記きありて蛭むし子こ社しゃ觀音堂くわんおんだうの本尊ほんそんは慈覺大師じがくだいしの他愛深明王たあいしんめいおう  
弘法大師こうぼうだいしと堂内だうないに安坐あんざなり攝行平郷せうぎへいけうの本堂ほんだうの西にしにありて常じやうに引連ひきと強かぢなり十九日じゅうくにち初はつめ  
縁ゆかり依よあり一ひと日ひとんには日にに執行しやくぎん藥王院りやくおうえんより大黒天だいこくてんと安坐あんざなり當院たうえんに祇園きえん所ところあり  
二月七日にがつにちしちは所ところ執喜しやくぎ大不動明王だいふどうめいおうと安坐あんざなり將井社しやうせいしゃと熱帯ねつたいに  
社しゃとあり又また虚空こくう空藏くわうざうと安坐あんざなり西之坊にしのかうより金毘羅こんぴらと安坐あんざなり桂芳院けいほうえんに福ふく  
社しゃあり又また不動ふどう役行者やくぎやうぎやうと安坐あんざなり長伯寺ちやうはくじに裸形はだかがた阿彌陀佛あみだぶつと安坐あんざなり慈尊じそん大師だいし  
二條にじやうれ右みぎの預あづかりあり女人にょなん成佛ぶつじやうの證しやう小こなりあり金こん堂だうの阿彌陀佛あみだぶつの表おもて目の  
化くわり系極けいごく誓ちか預あづかり又また粟あは佛ぶつ明めい社しゃ妙見めうけん布ふと安坐あんざなり角かくの坊ぼうより福ふく為ゐ大明神だいめいじん鑄ちゆうなり  
又また當寺たうじの本尊ほんそんは日本にっぽん二如ににょ未みの本ほん仁徳にんとく天皇てんかうの御ご遷せん也なり其一そのひとよりて釋尊しやくそん五世ごせい尊像そんざうと  
御戸ごこ同どうありあり勅會ちやくかいは法事ほふし音樂えんがく等らうありて嚴げん多たより代しろたりて天子てんし淨尼じやうに年ねん  
小こ當たうにせあり一月ひとつきの毎月毎月勅使ちやくし系向けいかうありて淨じやう祈いのち禱たうあり足あしと茶師ちやし清しやうくあり  
敘じゆ系けい自じ社は高辻たかつじ新町の東とうにありあり所ところ辨はん賊ぞく天女てんにょ之の今いま真言しんげんの傳でん當社たうしゃ門もん又また別べつ町ちやう  
の春はる沙さ神かみのの系けいは九月くわがつにち廿日にちに

朝日宮(白土通) 今の社屋 五条の山あり系所天照を祀り清和天皇の御宇貞観年中倭姫

丹波國桑田郡穴生村に造宮あり其後正親町院御宇元龜二年於此地

小遷座に 飛梅天満宮 未社六ヶ所の内より右宰相飛梅の

神明宮二箇小落又條に小あり古此處に融大臣の殿舎に封境といは地存勢を社宮遷

拜所之後世あり社を建 系右日あり

諏訪社(五條の南二町後務町)あり系所信濃國諏訪社とい神あり

新玉津嶋社の松系通玉津嶋町あり系所衣通姫ありて記別玉津嶋とい社後成

の勅造を系十一月十二日之 為家の若年の時社に毎月六度

たのむらね報ららけ社らり初玉津嶋也 前大政大臣

菅大臣社(五条坊)西洞院あり系所天満宮ありて則菅系是若郷の館あり系八月

十六日拜殿に額天満宮と書け 竹内門跡良治 天満宮降誕之地

誕生水 本社南の岨の内より 大師堂 像と安坐也 材木社 近年上冷泉家よりあり

北菅大臣 菅大臣の山あり系所 常喜院 北菅大臣の西隣荒木天満宮と書け

金剛力士堂あり



新玉津嶋社

新玉津嶋社 系合小神祇

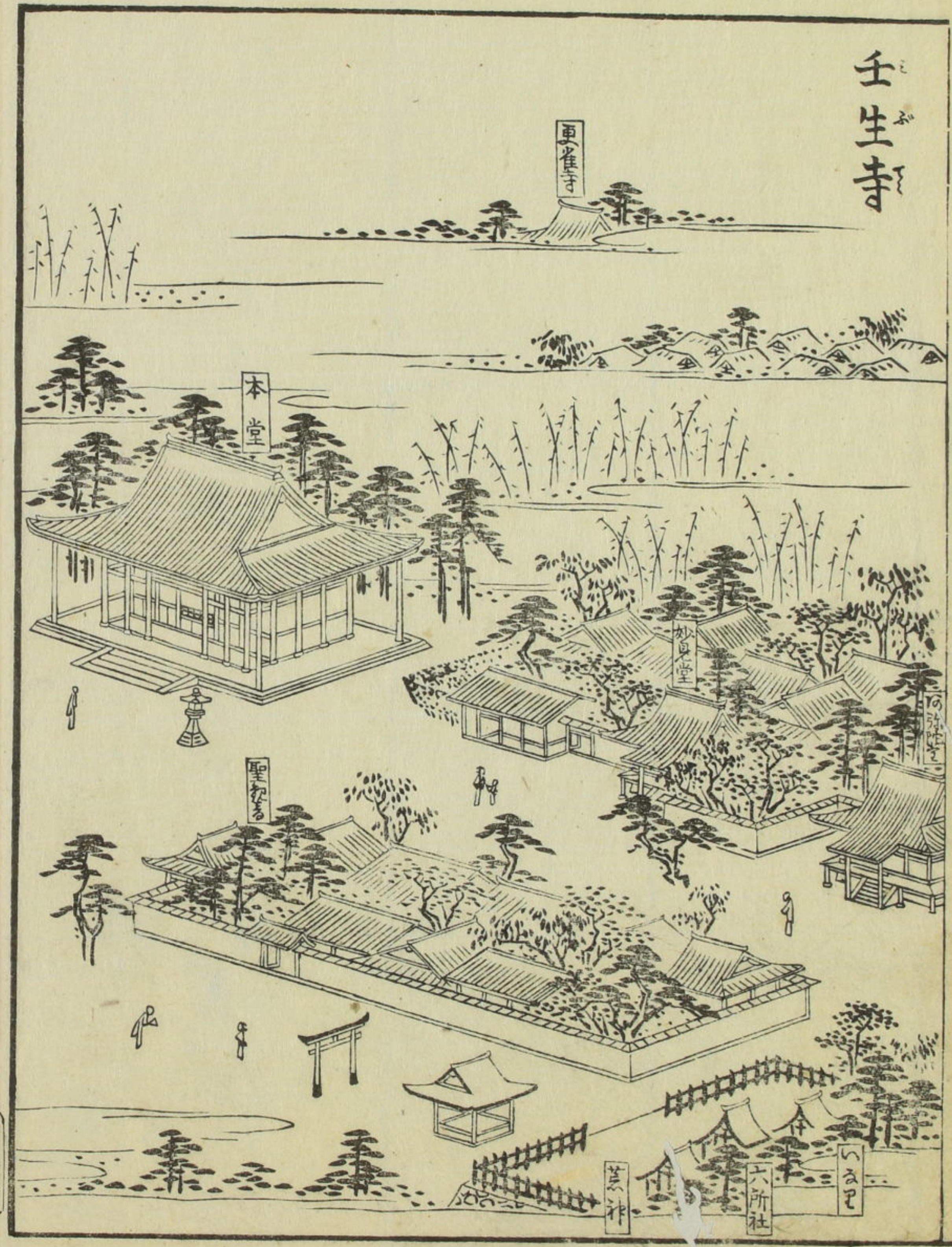
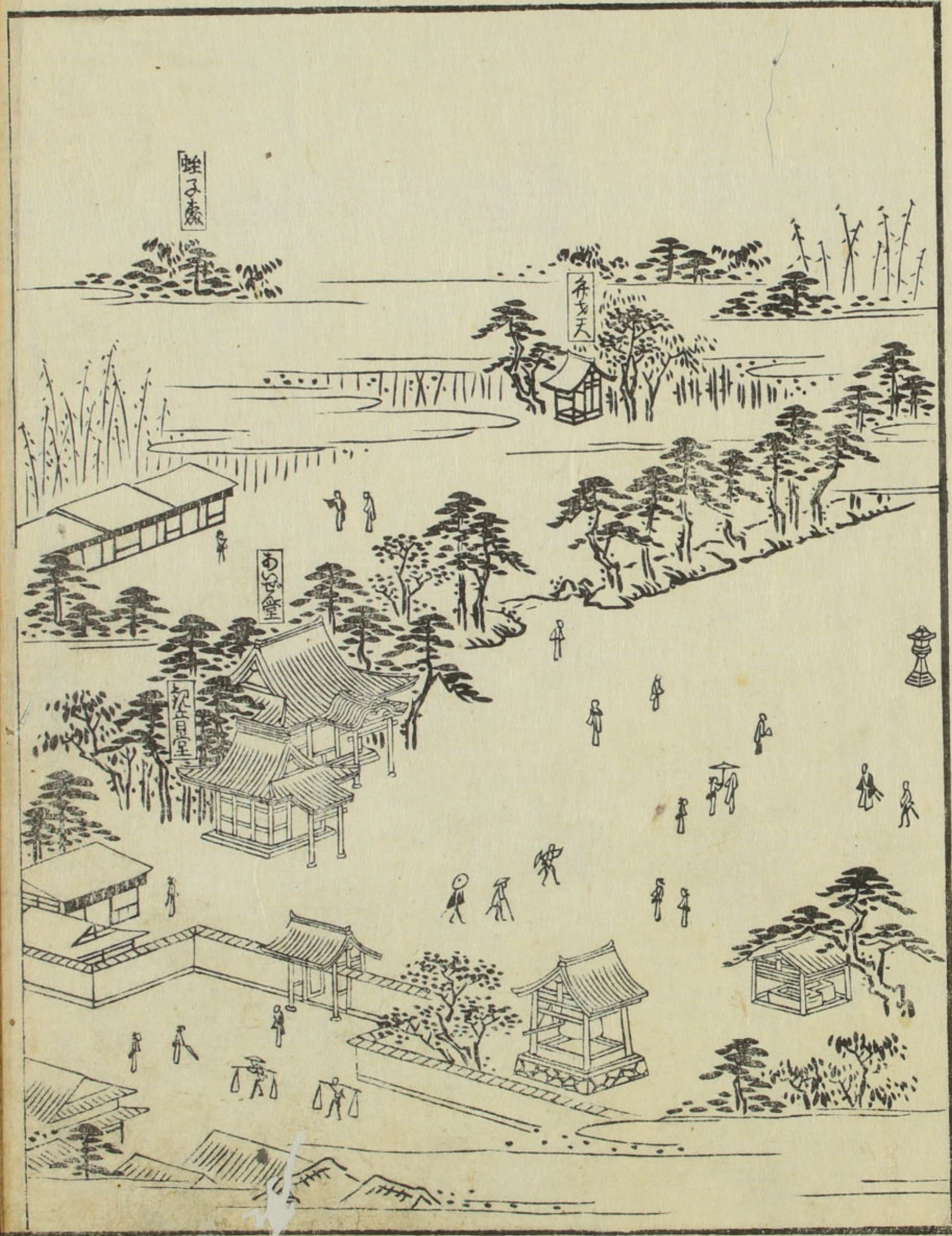
前大僧正 光海



五條天神宮の松原通西院あり天徳社系所少彦名命相殿天熊皇太子宮と古貴命なり  
 桓武帝遷都の初平安城鎮衛の爲造宮一の醫道社祖神久古宮殿魏々として  
 東西四町南少五町の神領之巡一の樹林森々より傳教弘法の兩大師も入唐の耐歸  
 朝安令の祈禱を爲め而社記あり承安三年文覺上人配流の耐歸社の名居の下  
 黄金を埋ぐる計畧少く難風災免れより源平盛衰記よりより安んん年一六源  
 牛若丸鬼法眼と兵書の遺恨ありて我いゝ感應と傳へお勝といふ所文武殿坊  
 小多のいゝもい林とも至徳元年平將軍義満公殿舎を再建一の系一九月十日  
 入即分一の白木小餅寶船旅 禁裏より  
小餅料の天文二年將軍義輝公の母の慶壽院より  
 所由年ありて紹興より今に至り公勢の海法  
 として年々具料と賜へは夜法人群衆して  
 厄難除滅と祈る二種の神ありたり  
 一音寺の天神社の西隣を本尊十一面観音の長七寸七寸と弘法大師の他之淳和帝御宇  
 天下大不疫とい時天の爲に保勢春日兩宮へ令幣使と立られ社記よりして和州  
 長谷寺に觀音像あり弘法大師勅して造りぬる尊像あり  
洛陽觀音像の  
 第二十八番 痘疹神  
 文徳天皇御宇天竺二十星野を正利とくらの新羅國渡海の耐瘧症に罹り正利當寺の存する  
 小餅をいゝ應驗のいゝ多平念一安んん年一六源のいゝ其いゝ安んん年一六源のいゝ



五條天神宮  
 一音寺



新住吉社の醒井通高辻の角あり新所掛別住吉明神之儀成り勧修寺ありとを

荒神社の醒井高辻の山あり文保年中横別勝尾より勧修寺 近湯川系清荒社

化粧水の西洞院四條の南あり 一いつは所小野小町の別荘ありと云れり三洞井

藍染川より小野小町なる松よりけし人本をこくつとけ川小

小松内府重盛別業と室町西条の南西側あり 一沼尻大池を公任の回船と云ふ高樓

枚恵比須社の猪熊通松系れ山あり新所蛭子神之 當社の什物と親者聖人自筆の九家の

天道社の五條坊門松熊の角小あり新所日月の神あり

御太刀松の四條松熊の角人家の裏あり源義経は松より太刀をけし取の山あり

とと松川の館の封境あり實所館松あり

石神は石神通三条南あり 新所豊石庸命奇石窓命之古の地中忠親郷の

東住寺の四條通大宮れ西より降去宗より本所阿弥陀佛の表目依中將實方松

勅依けし松は為吾妻の松奥の松於て表其靈雀の松にてはまれ松と住

主親智法が松あり故小雀松と松の松は松の松ありと云ふ

あたまのり

まぶね

むくし

ねえれ

桶とり

紅紫

愛宕

わらわ

おの

節分

猿引

餓鬼責

さの

徳坂

あつ

捧



あたまのり  
まぶね  
むくし  
ねえれ  
桶とり  
紅紫  
愛宕  
わらわ  
おの  
節分  
猿引  
餓鬼責  
さの  
徳坂  
あつ  
捧



壬午の大念佛中興の  
 岡山圓覺上人より  
 函り毎年二月十四日  
 十日十夜本堂におおて  
 修りをはるの中  
 終々の相をなると  
 るの靈癡蒙昧  
 の輩勝縁の  
 徳よりめくま  
 授の道入へん  
 がための方便  
 るるべし



桶よりこれ  
 狂言

壬午寺ハ五系坊ハ本堂に東あわり中興の言律して和別招投より届以本尊地藏  
 菩薩の坐像長三人ありて定朝に化之當寺の草創二條院御宇正暦二年ありて  
 田基二井寺の快賢之僧都之  
姓ハ藤氏にて栗田園白通兼公の支族あり智證大師の  
 隨身多々天台の真義を究む承暦十六年十一月十六日卒と  
 地之藏の尊像彫刻を預と發佛一定朝に命して十日に回し作り終り相好  
 圓備多て恰生身向ふ如く是固まの存るこ之持物の錫杖ハ慶長日本尊九方  
 身方よくて異香薫り音樂出の圓て聖衆來迎の如く午に外方人々漸々暗り  
 本尊と拜とれい自後して六輪の錫杖と持のこ存るある夜は後には錫杖ハ釋尊  
 伽羅陀よりて延命地藏經を説め府中より出たりと告め當寺の最初の草堂と  
 け本尊の安置は私二年堂供書ありて小二井寺と号し其後順徳院御宇建保  
 年中ハ和別前車平朝臣宮平本をこれ利益と當りてより堂舎修坊悉く造営しけり  
 寺と玉體二味院と號と又地藏院と稱し白河院鳥羽院後白河院順徳院を  
 とも信教ありて和宗ありせありの由る家記小委ハ中興ハ圓覺上人  
 大念佛圓覺上人より始り毎年三月十四日より廿四日  
 壇供 毎年正月より十日の間に  
 法人をこれとて修りて後ハ

本圖寺



三十三



三十三

大光山を園寺の堀川松原に南あり法華宗ありて一致派なり開基は日蓮上人也

初相別鎌倉松葉谷み遠交有りて法華堂と名付け一宗最初の精舎なり

日蓮上人姓三國氏 聖武帝の苗裔なり 遠別の刺史賈名重実次男なり母信宗氏

貞應元年二月十日午の刻房別小湊浦に誕む十二才して同國清澄寺に登壇

と号し十分を為誓一名法性と號し後小日蓮と改む初推しり女賢ありて常

小虚空藏と祈る夜の夢に老僧有り手小明星の如くある宝珠を授け授けたり

して一と聞て十と悟れり此諸宗ありて南都北嶺ありて園城入りて法華宗

をありて信法宗の義判蒙るカ散りてこれ法性と檢し諸経中王最尊の金言

ありてり衆生成佛の根えりて後建長元年三月廿日二十才して朝日

むのい合嘗て始て南無妙法蓮華經の七字と唱清澄寺の南面ありてこの僧具外

守護職東條九金吾系信等ありて法華を演説し論釈し議文ありたり

法宗は僧徒凡そ本葉の隨が如く是宗流布の監錫なり弘長元年五月平重時

ありて如て信豆圓信東邊に在たりてありて相別菴口の汀にて録せり

敷革の座ありて天候のきつる震動してた刀取眼くく之劍履にたれり相換り

てふ發死をいりりて又永八年に依後小流しぬいりりて又あり

これ赦免狀とりの傳ありりり宗派海國に隈なく流布し遂に相換守も貴

敬し上人の永十年又月に鎌倉松葉谷に申別身延ふりて州菴を結び是れ朝花

坂折て佛供し秋の夕ふ月とて經書を照しある時夜は雨の窓におくはれり

此の邪ふありぬいりり此宗をいりり日蓮上人

後宇多帝御宇弘安三年十月十日百歲終焉在りて宗仲家と遷化あり

鎌倉松葉谷法華堂と日朗小附属し又印あり住し日静は時勅預所と成貞和えり

光明帝れ勅ふりて相別鎌倉松葉谷上條堀川に移し

本堂は法華妙蓮と尊尊し 日助僧都一字これの号なり 立像堂小釋迦佛と安ん

る 日蓮上人の親具外日朗日印日静日像の親とあり 本堂 鬼子母神十種判

方丈妙法花院と稱し其初は別安土あり画寫形 人磨社 方丈の庭あり尊氏公あり

泉諦石 一名祈禱石 此鴛鴦曼陀羅 日蓮上人の母と衣具の花を拵りて一寸斗の器

の地盤に樹其妃の袍とくは是を本園寺に置く

佐女牛の井を  
醒井五条乃  
南小あり井  
小銘あり  
佐女牛の井  
元和二年  
有與再建之  
足利將軍義政公  
茶道小龍や  
とたけのぬ愛  
今用り人も  
草茂り苔深  
も埋りかへ  
泉をむり  
涌出り李白  
石甃冷蒼苔  
寒泉湛月明  
あはれの流泉  
いへるるべし



本願寺の西六條小あり宗首親鸞聖人の弘法あり聖人の傳未卷華頂山植髮教堂の所ふあり當寺に草創

龜之院淨土文永九年聖人の息女覺信尼日野左衛門佐度細郷の室より勅と蒙り洛東大谷

始て廟堂を建立同山滅後十一年の當り龜之院勅願所として龍谷と本願寺に號と揚々身二代

如信上人同山嫡孫と善善上人の其頃奥羽大細郷小居住り故に覺惠法師度細の子母の

覺如上人覺如上人の大谷の留主職とありまより覺如上人才二世の継て後伏見院正女元年

に勅願寺とされ論旨と賜り第八代蓮如上人の附家大谷の繁昌宛園と在在女小起

より山門の衆徒されと如て實正二年に當寺を破却し又寺門三井の流凌に蓮如上人

小荷擔近松寺に寄附し聖人の教像あり移されり蓮如上人小園派經

回一紙前右崎の淨堂と管北陸七州に化養其後文明十一年山州小村郷小教堂

と建し第九代實如上人の以養と揚第十代澄如上人の附淨堂と揚州大坂の寺に

十一代顯如上人の附二品親王の勅書と賜り淨土跡に號と勅許あり又淨堂と紀別

證同山の子母の寺信長記本堂同山親鸞聖人自伝の教像後安養

信尼同山の子母の覺如上人の

覺如上人の

覺如上人の

覺如上人の

抹して漆小和し彩紙同色なり故は骨肉滑細と移り坐倚りて長臥又寸餘と云本堂ハ大なる  
須寺のしに紫宸殿拜儀より御堂造り紫宸殿の模範堂前の高塔ハ内裏に日一

南山の脇壇より前任大僧正具外歴代の書像と安ん餘間小九字十字の之號  
坂安ん寂如上人の筆也 毎年報恩講七盃夜の法會ハ 阿弥陀堂本尊阿弥陀佛を  
左像長三又好りて春日の化より脇壇より高祖聖徳太子法然上人の畫彩紙

安ん 當門主法如の付 轉輪藏 一切經藏藏む額を 撞鐘堂 舊は  
上方の佛殿也 上方泰度隆寺にありて少納言信西入道の銘あり 鼓樓 具由縁と稱む豊公丹の主方ハ坊官  
由縁隆銘ハ信長記拾遺也委 下方氏ありしれ 唐門 南の築地長はありけ門ハ一豊國社ありあり人ハ虎間  
下間氏ありしれ 唐門 走獸等の彫物莊嚴花を以て希代の奇あり

四方ハ虎 浪間 天井ハ波と画南の方ハ車とせあり 對面所 大慶間ハ一長谷川了漢  
と画 聚楽亭よりありしれ 白書院 小慶間ハ一画ハ右ハ日筆より 黒書院 西ハ狩野探幽の 具外園雕殿清春  
前ハ林舞臺あり

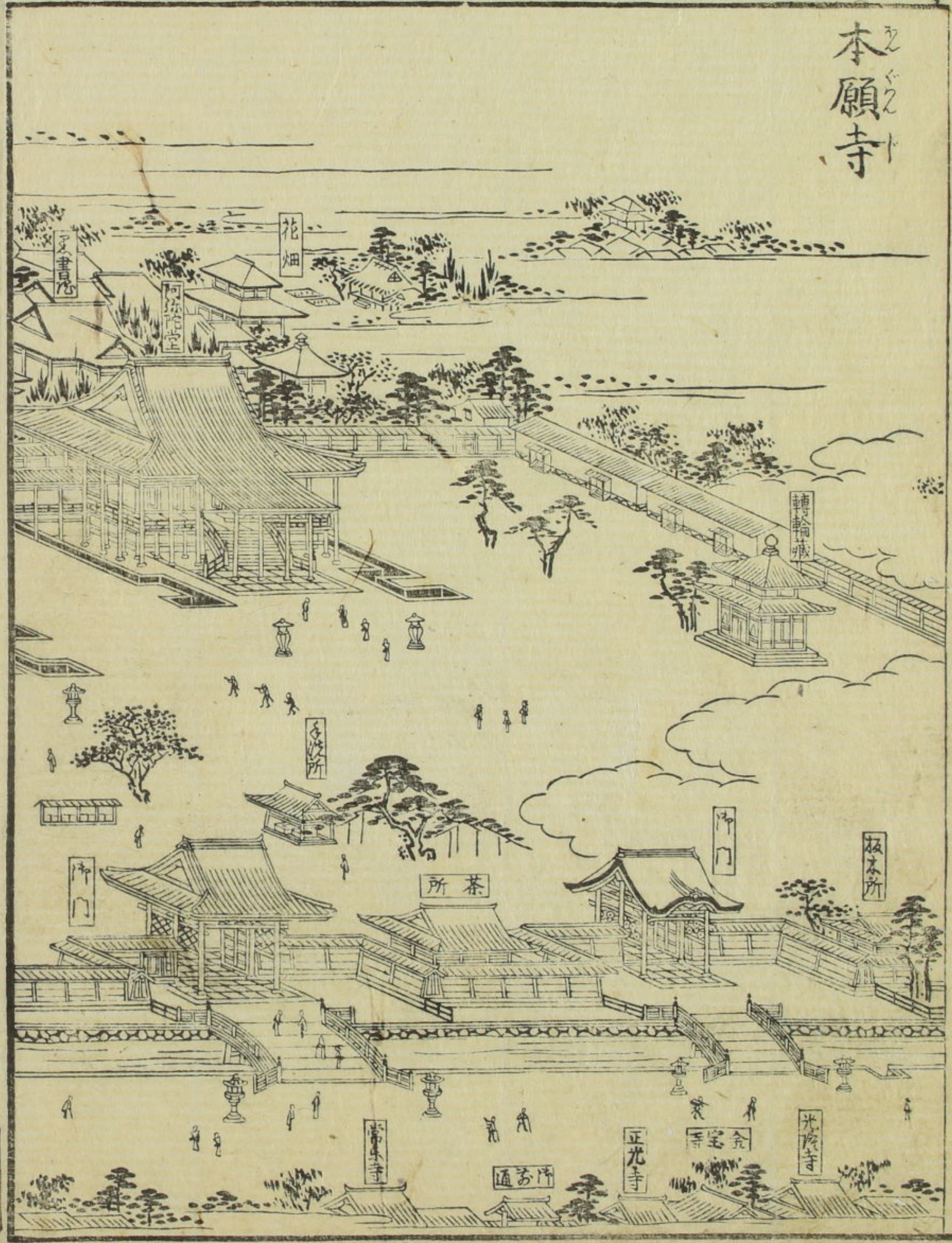
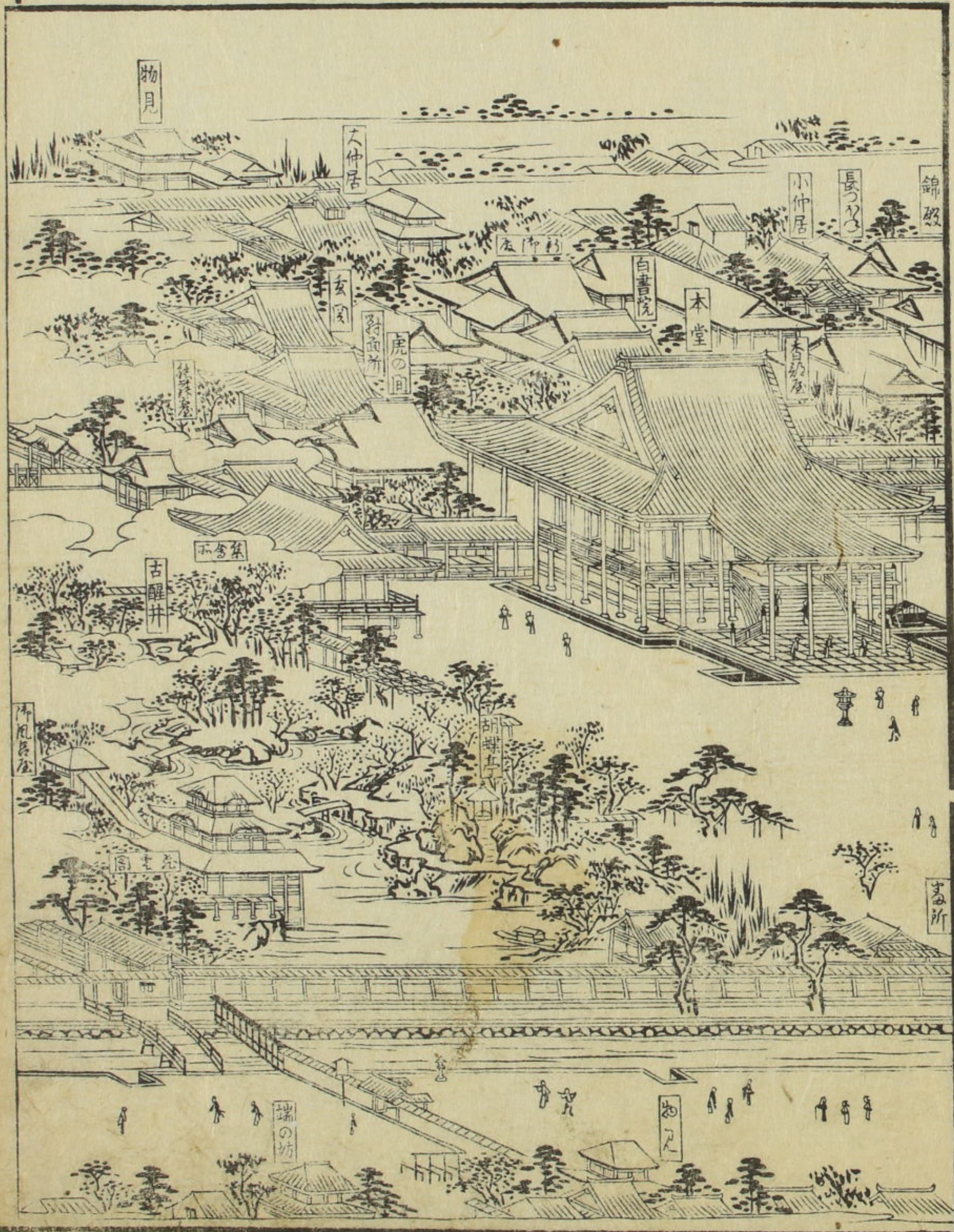
館永安館桃仙館等ハ殿舎高閣多しと云も繁華中にてあり夜暗ハ大仲居  
臺所よりハ伏見城ありと云ありしれ 唐破風ハ大正天の儀あり三ツの儀と踏 滴翠園 集會所の東ありて  
玄画の十勝あり

高樓と飛雲閣と號及之代秀吉公の附聚楽亭ありと云ありしれ 坂安ん寂如上人の

西六條  
本願寺北御門前



町屋花



本願寺

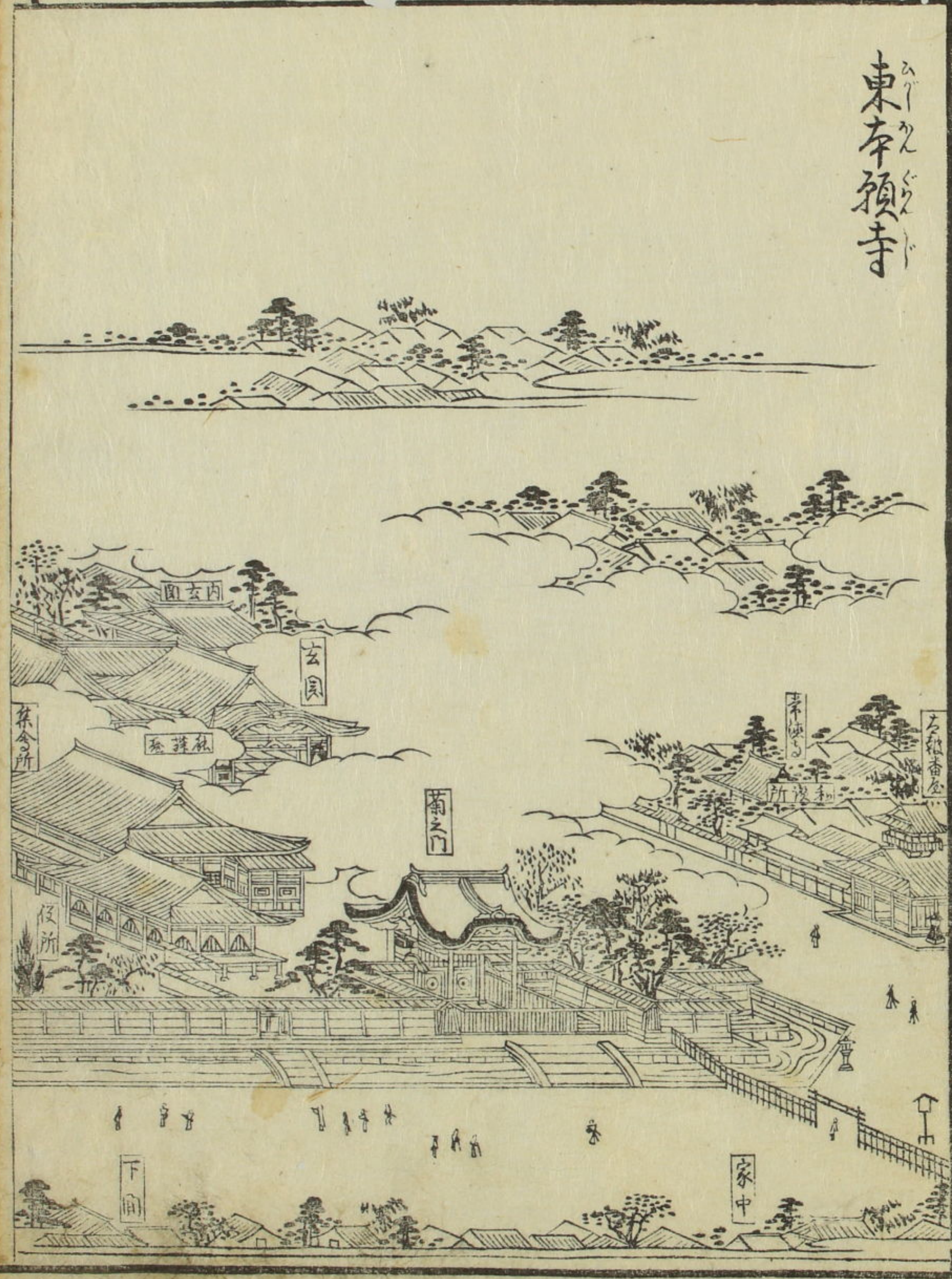
興正寺



九條園白尚實公の清筆之園上の画に霞け富士中園の画に二十六哥仙とて古法眼之信れ筆之下と詔賢殿とて飛雲園の記に殿中の東より十六世湛如上人の清法にて當門主法如上人筆故條あり池の高樓を巡りて常小松を浮むまは浪浪池とて龍背橋を過りて踏花場ありけは色櫻樹穀あり胡蝶亭の傍みり夜光石あり嘯月坡池の巡りて坡より黄鶴臺高園の西より清湯殿あり醒眠泉一名古醒井とて洛陽七井の其一なり當新門主文如上人の艶雪杖の梅花多し青蓮樹の茶亭ありて又澆花亭とてありて間ふら遊一華林園小同うして鳥獸禽魚のわたりて来て今親の芳園なり

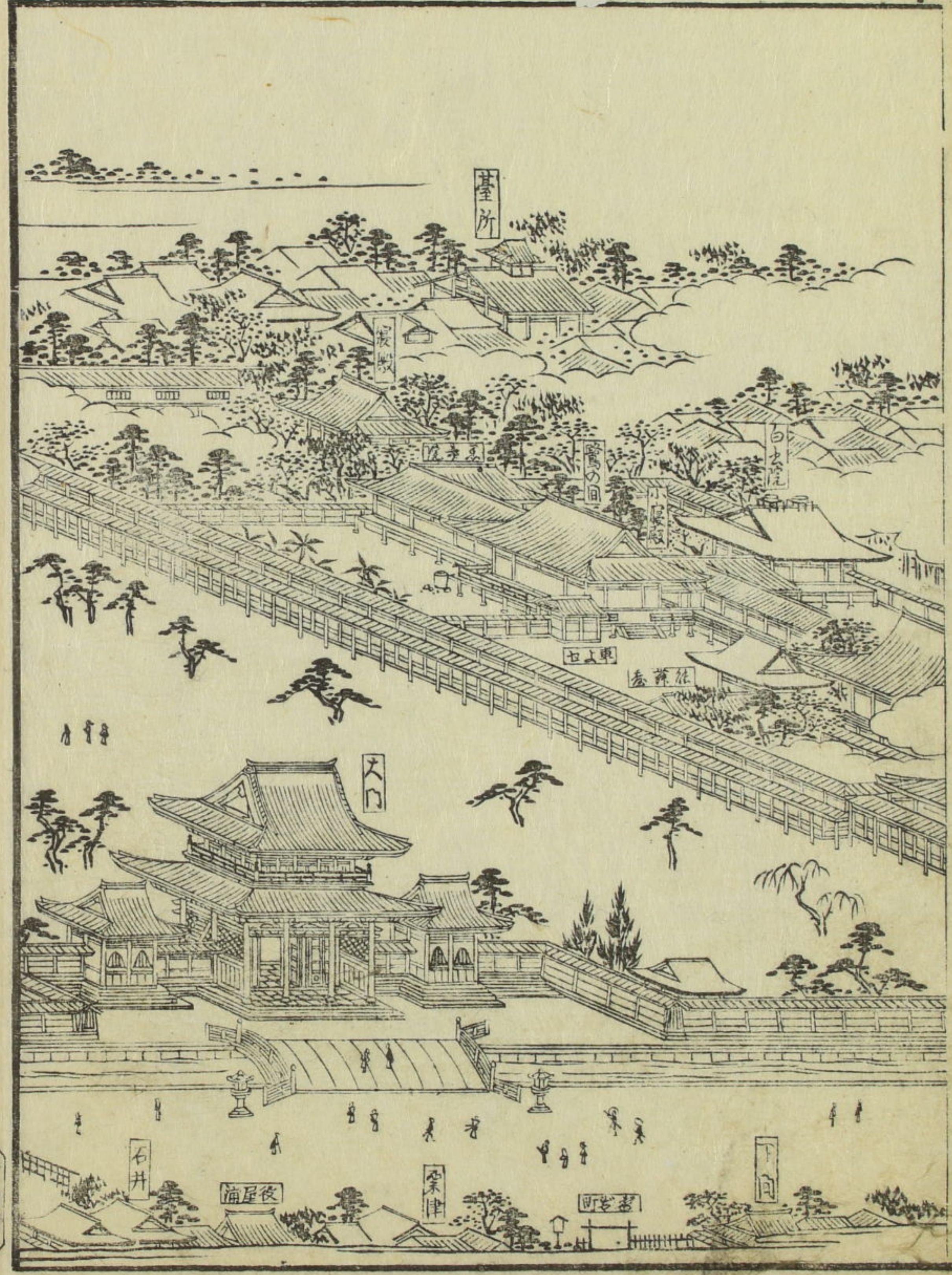
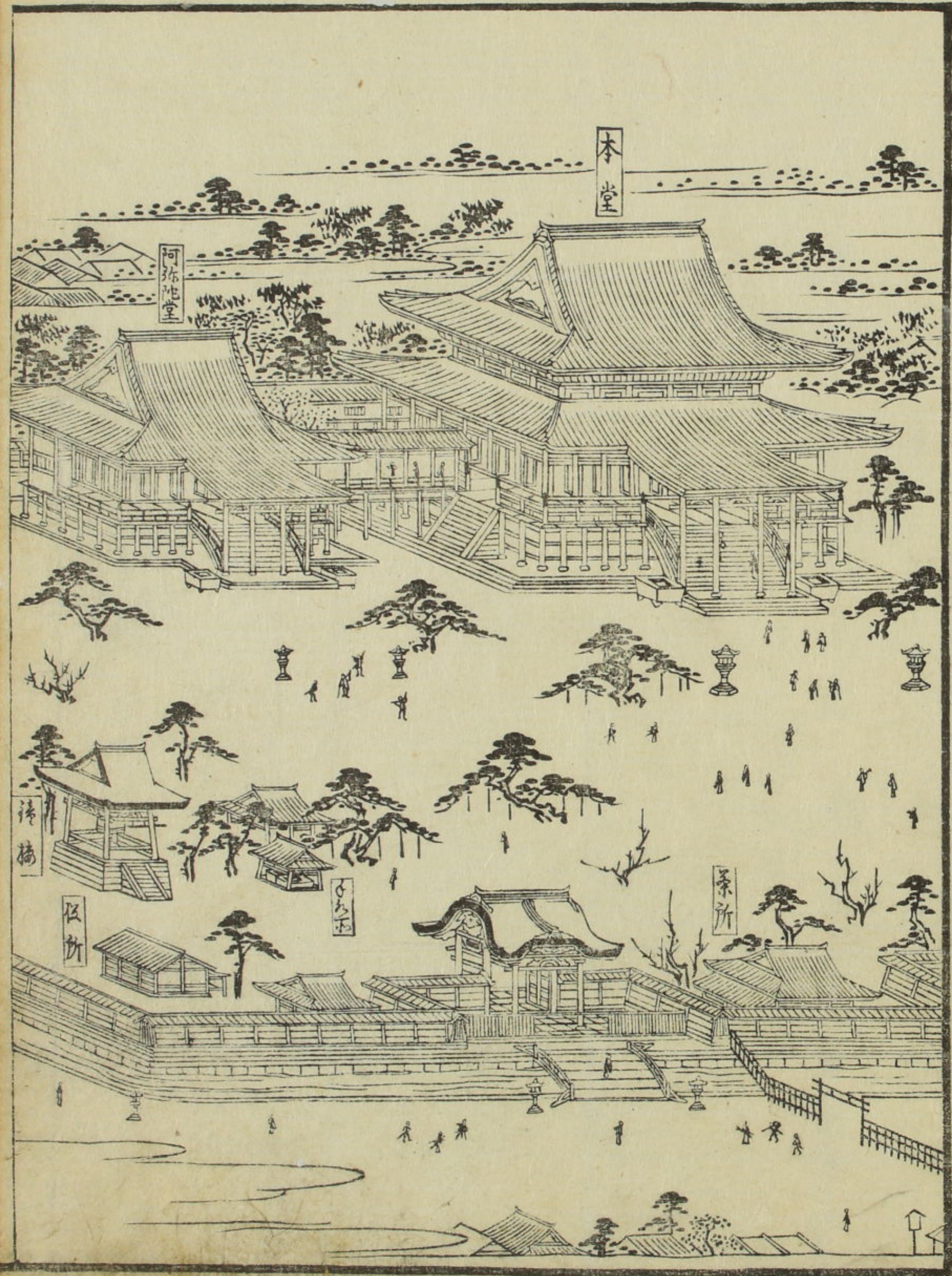
常樂寺 西本願寺 本尊阿彌陀佛の春見也之 立像長 因基存賞上人 本願寺の三世上人の嫡子 上人聰明 般若智して顕教教玄智僧正ふけ密教教經惠僧正ふまびその真言教悟り且持あり教善して多し著せり當寺初に文通宮具後法宗小法通に常樂寺と稱して天十九年此地より興正寺 西本願寺 本尊阿彌陀佛の安阿彌の依之當寺の初に宗祖親善聖人四十歳に於て科れ郷中に造宮興正寺と名け高僧真佛上人所屬あり其後今に殿所中庄け谷より後醍醐帝の時此寺に改む 委 十四世經豪上人本願寺蓮如上人を帰依し依りて新小堂を建て旧号を用い興正と稱す 十七世顯上人の正永永保十二年の

東本願寺



東本願寺ハ鳥丸六条の南小あり宗省ハ親孝聖人の弘法して用ふり身十  
 一世顯如上人の嫡子教如上人慶長七年園東の 台命被蒙りて六町四方に寺  
 地被賜り新に佛堂を以て東本願寺御門跡と稱し宗祖より十二世の血脉  
 被相續る本堂ハ親鸞聖人自他れ像と安堂に 坐像ありて長徳太子繪ありけり像  
 小ありて 脇壇ハ前任大僧正具外歴代の畫彩と安に餘間ハ九字十字の石號と  
 ありて 用ふり聖人の筆より阿弥陀堂の本尊阿弥陀佛ハ安阿弥の依  
 脇壇ハ聖徳太子法然上人其外三朝高僧れ畫像被安に大門 本堂の南に  
 の坐像被 大門の南あり初に秀吉公の壯觀ありて伏見城あり双の扉ハ菊の大門に  
 安堂に 菊門 金銀樓花飾ありて塔中の石の觀あり  
 阿弥陀堂の門 されハ伏見城ありありけり 撞鐘堂 伏見城中の井戸 玄園ハ本堂  
 捕りて長七間 寢殿 大廳間と号し 小寢殿 小廳間といふ画ハ白書院ハ白書院の間  
 幅三間の一枚板 寢殿 画ハ樂の字に 寢殿 寢殿の字に 白書院 白書院の字に  
 小躰の間あり 徒と舞臺ハ集會堂ハ西あり 具外殿園堂舎等花飾被はく  
 して他境ハ勝まを繋ふりてあり 略に  
 東殿 今の音高 台命よりて増地被賜り東本願寺ハ別館と云舊け所と  
 屋敷あり





河原院の旧跡ありて比叺の出流小九重塔あり是初融大匠の古墳あり融の社あり  
 境内の隣地下町万善寺 池水東の高津川より流る常小浴より水戸を獅子口  
 といふ臨地殿の危小坂遠列れ好なり風光奇しくして真妙あり

炬火殿七條鴨川の西あり所稲荷本社社末社あり神祕ありといふ又稲荷社末  
 礼の日神樂臨幸の時七條河原より松明を照し神樂を迎ふるありは社の  
 舊例ありて故ゆゑなり

稲荷山といふ所のあり 家集 稲荷山といふ所のあり 貞徳

金堂寺七条間の町北約當あり七條道場と稱し時宗ありて本尊阿彌陀佛と奉る  
 腸塚といふ上人の塚あり けしふ俗姓伊豫國河楚七郎通久息ありて別府通慶が妻  
 二人某盤を花として掛て如の兩れ髪地と化して頭と立く國へ  
 通久ありて久入く大なる髪を包剣とぬりて隠るに斬られより妄執輪廻を親察して不羈乃  
 僧とあり時建長年中に始台教と名び又然形に清く権現の示現を崇め四白れ  
 文と名せりある時宗の舊し地佛工法橋定額定之後上人奉附してあるなり

成興寺九條島丸あり本尊觀世音の慈尊大師の化あり 洛陽觀音の  
 具一あり

宇賀社九條の東あり所宇賀社といふ所の東西の徑と宇賀通りといふ

東殿  
 東を後寺別荘  
 あり俗とい百  
 屋ありといふ



數内紹智の家西洞院小治の山あり鼻祖劍仲紹智千利休の高弟あり師小向て曰秀吉公の寵余今紹て遠き慮多れ附い近き害何んを諫し

利休忌不真めて紹智と退々い大徳寺の三玄院小寓居に利休の滅後治小紫竹は住し専系道と終小具後鷹司通

頼寺河門主良如上人の招かめて今の地止後故小系道の下流と稱て利休嫡傳の正流なり吉田織部が教を授けり

大坂初元の付け家遷り出陣に

芥根水の堀川通生酢屋橋の南ふあり

近奉書家鳥石著辰清水井飯入信

彫刻と又公卿の詩をそそむ其序文曰

源融公むうけ多香旬たりし

あつ所よわいて奥列み賀の塩電の系より

再いしうめて具舟身宅の用みより

所以とよせんみ今附その資と喜於して鳥石先生

恩院に侍持のい入信都は宗あり先生の所初より

稻荷社 稲荷社稲荷橋通の南ふあり系所稲荷社の不動堂

道祖神 不動堂の南ふあり系所稲荷社命書聖天満宮

稲荷御旅所 道祖神の南二町ふあり稲荷の神薬五座

春日森藏王寺 あり由未不詳

古御旅所 八條坊門金替町の南ふあり

栗嶋社 堀川の西生酢屋橋通の南ふあり

清盛の館 西八條殿より平家物語曰平相國禪門

住吉社 西の方一町の草あり

古井土 八條小あり信曰後通羅生門

八條坊門 金替町の南ふあり

稲荷の神薬五座 稲荷の神薬五座

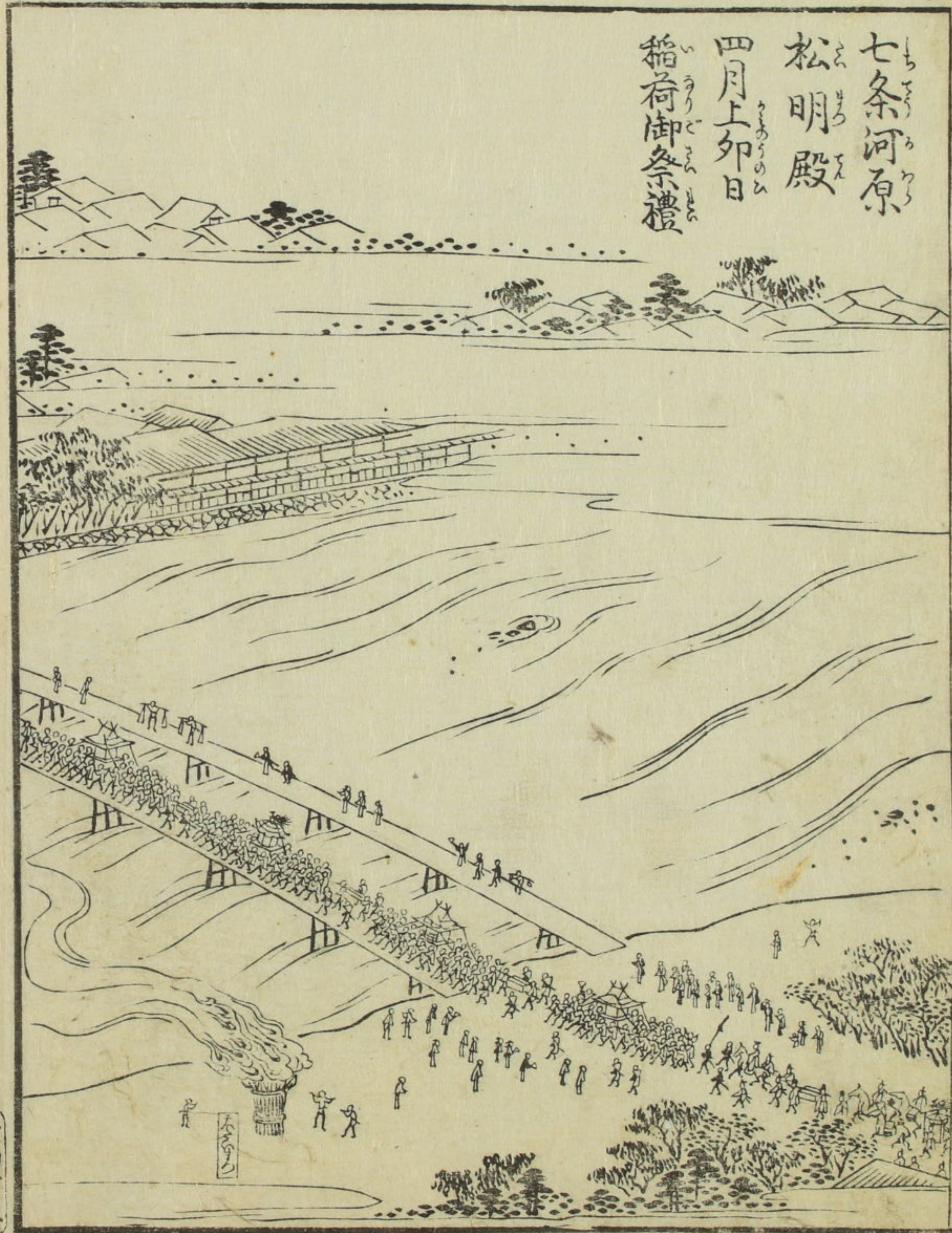
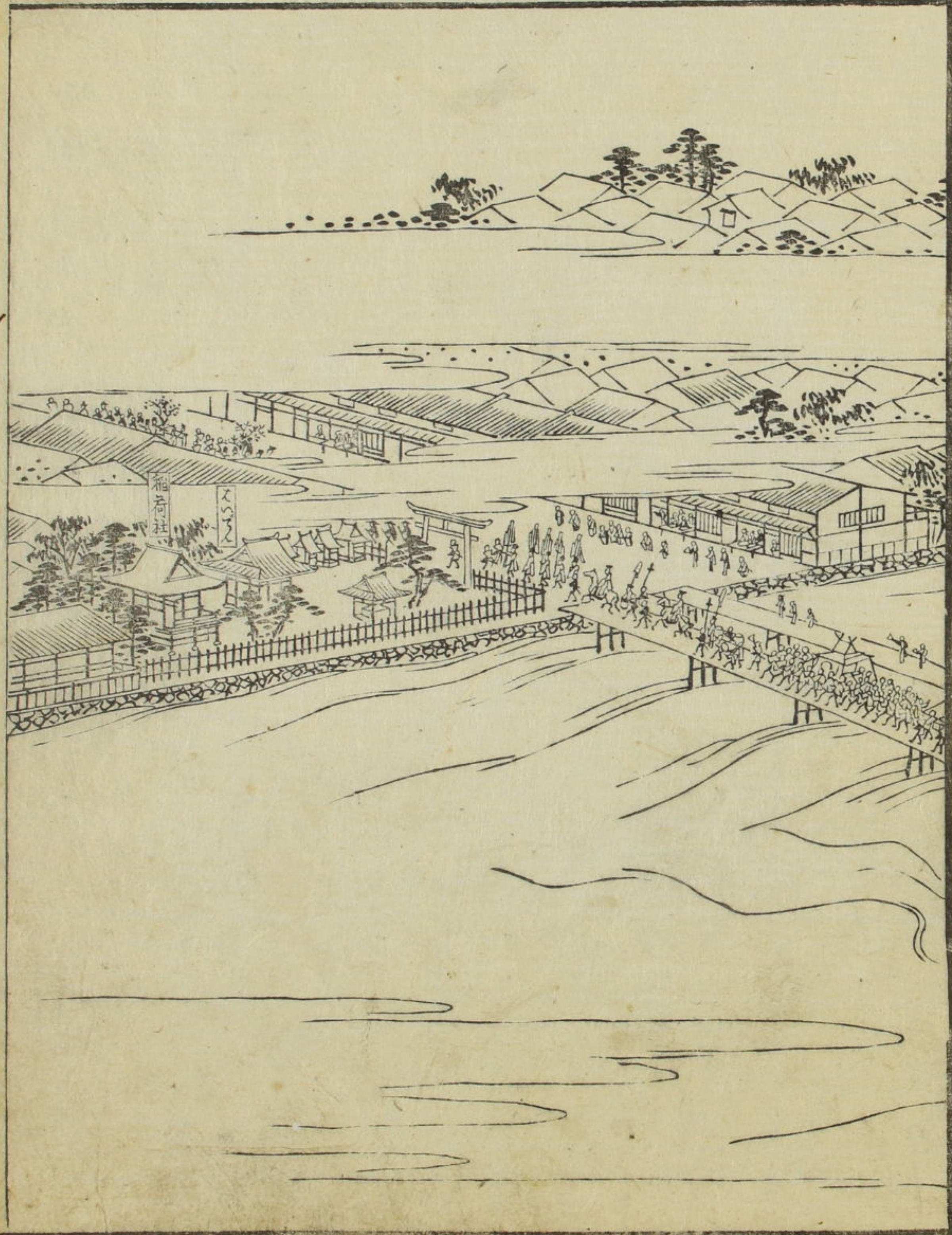
稲荷の不動堂 稲荷の不動堂

稲荷の書聖天満宮 稲荷の書聖天満宮

稲荷の春日森藏王寺 稲荷の春日森藏王寺

稲荷の古御旅所 稲荷の古御旅所

稲荷の栗嶋社 稲荷の栗嶋社



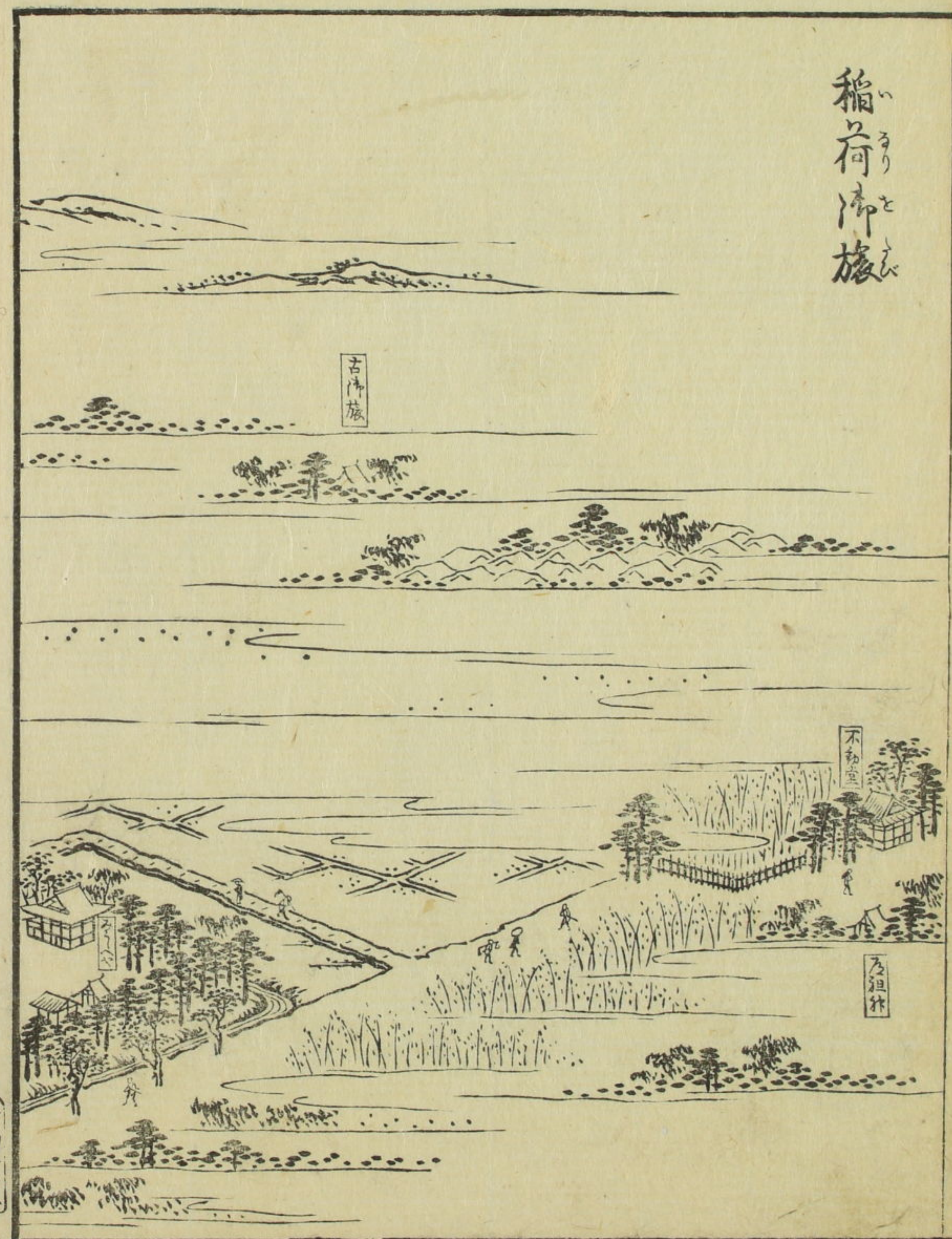


芹根水の堀川  
 けり登橋の南あり

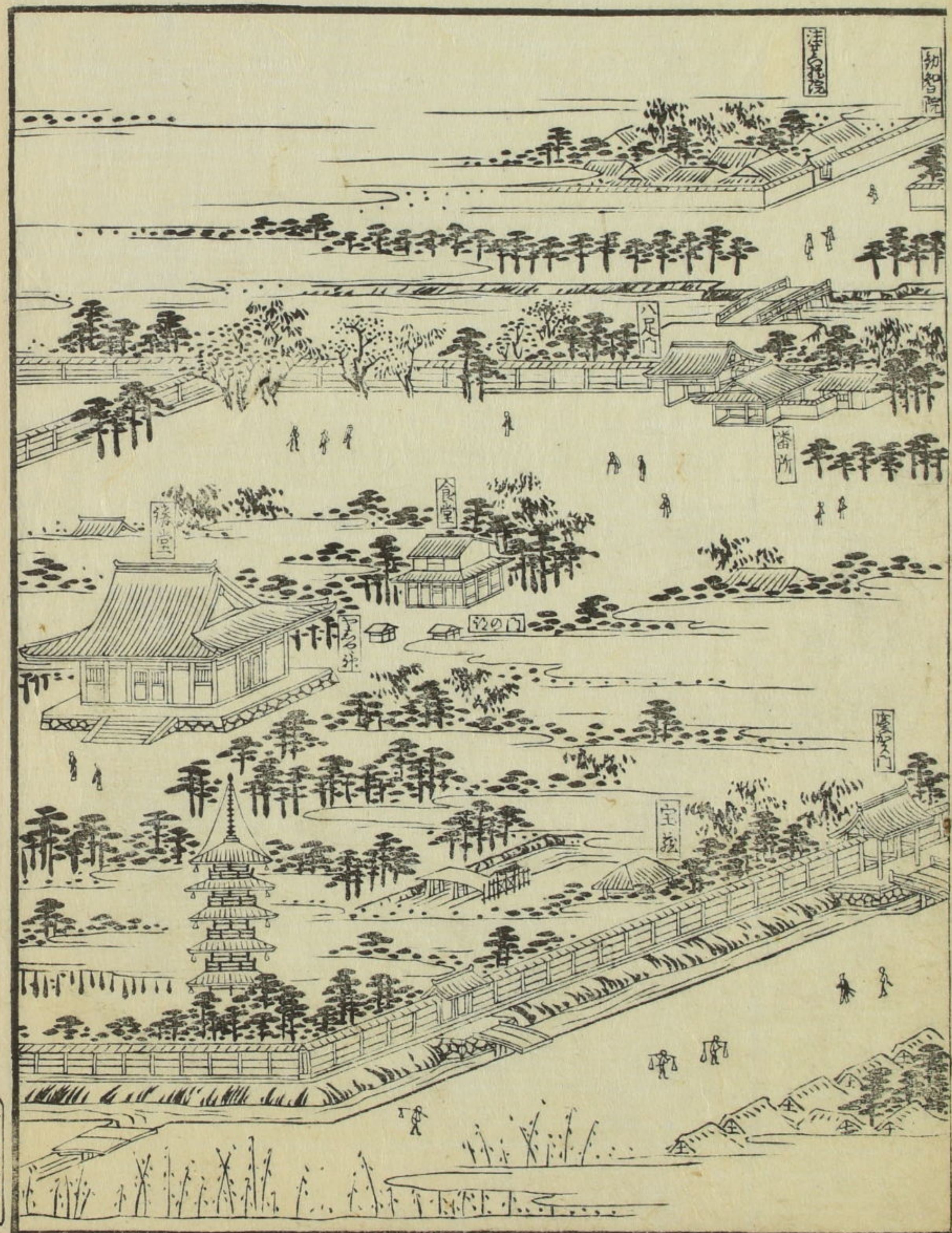
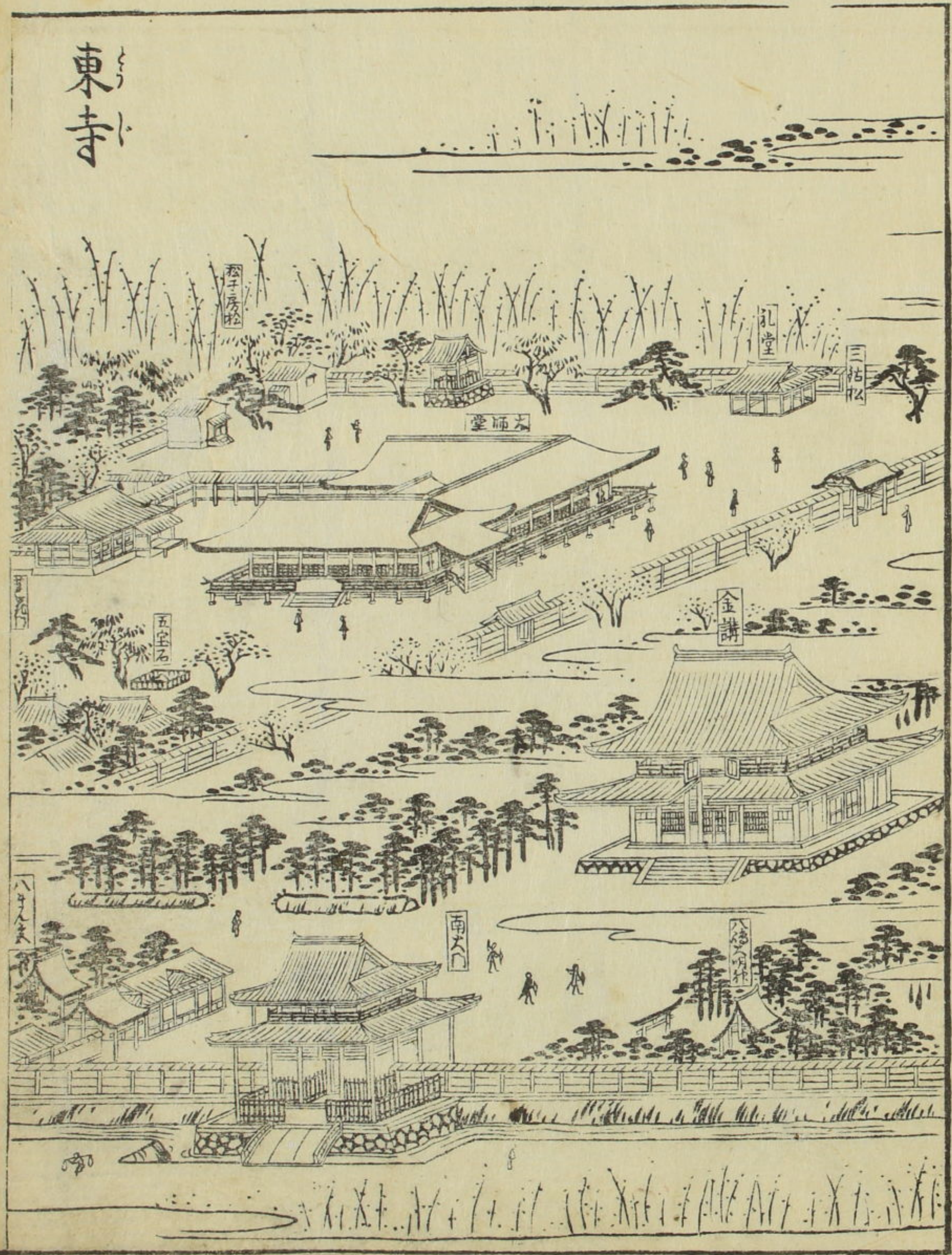
融公千載宅  
 今見石泉清  
 若使陸生品  
 南零應競名  
 寛雅公

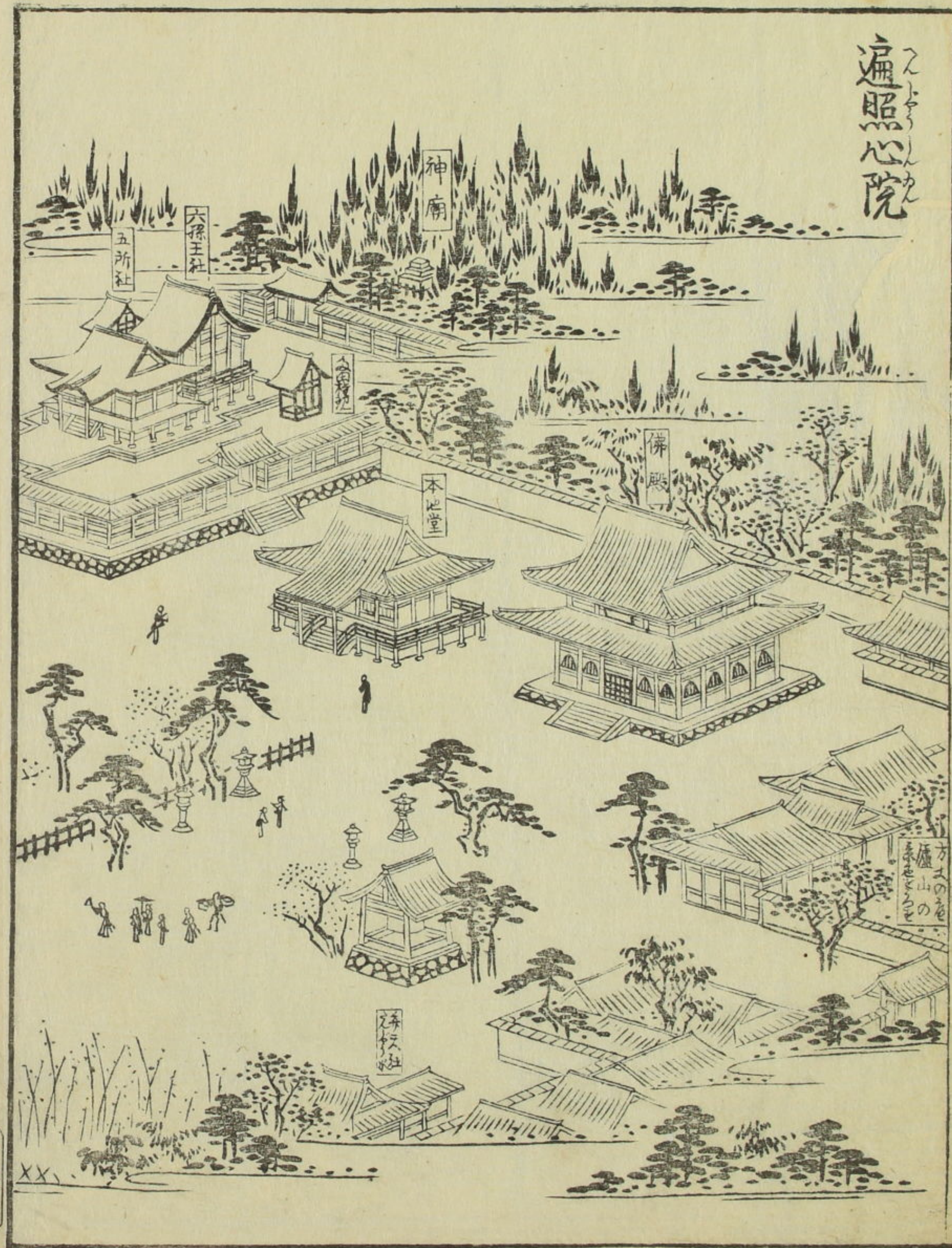
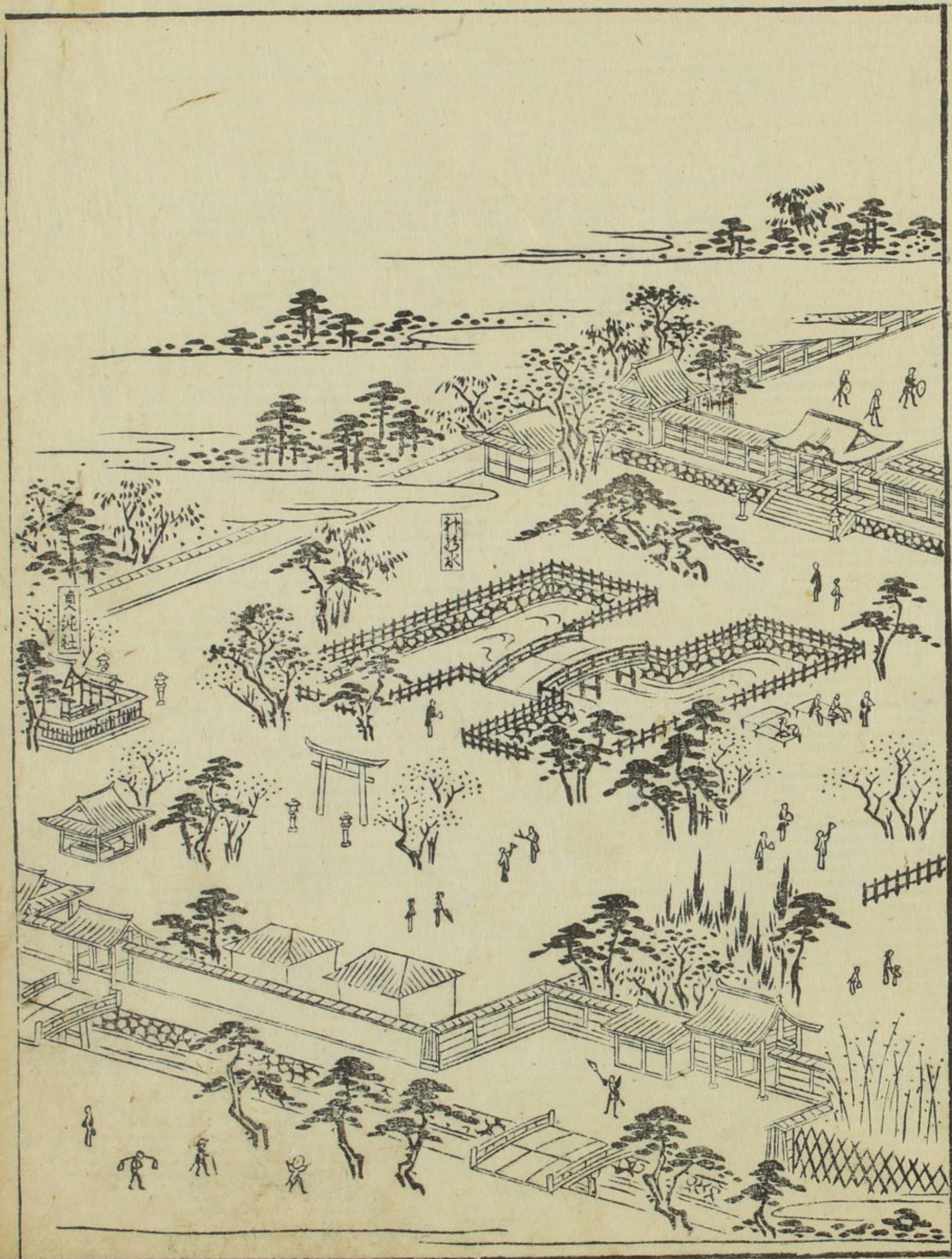


月見橋  
 堀川の直生跡を橋より  
 ながのふはえんは信濃  
 國更科那後産ひる  
 人月見橋と  
 けりあつり  
 けり



東寺







八幡と教主護國寺秘密傳法院 東寺入丸寺 大宮北西八條の南より真言宗の  
源より用祖の弘法大師舊は地内裏の鳩臚館より末朝の廣容と修る  
漢朝の鳩臚館不空三藏小給く精舎と宮一具例と准して弘仁四年たふ  
空海に給ひ右寺に守教小鳩小折弘法大師の護別多度那屏風瀧の臺より  
光仁帝寶龜五年に誕じあり十八歳して大僧に至り志佛經ありて遊り出  
家して延暦十四年東大寺の檀小のぼり具足戒とけ多空海と改む靈夢に  
よりて和別高市郡久米道場の東塔の下より大毘盧遮那神變加持經を得  
ると文議曉しつたれば延暦廿二年又月入唐して唐に貞元廿一年二月十一日  
青龍寺の慧果阿闍梨より福一の經の奥儀真言秘密とほくと同元年十月  
歸朝して傳來に密法を弘むありて嵯峨天皇勅ありて内裏におきて諸宗乃名  
僧とありて空海小めくあり所宗義と論せとせり空海の日寂宗の大師  
變の真言一夜阿字を記とれ即身成佛とあり諸宗一はんとせり論  
とほくありて空海即身成佛とあり勅ありて則五藏三摩地

觀入息首より五佛の寶冠と身より五色の光明と放ら面貌金身と毘盧  
遮那佛とあり帝の御座よりよりあり諸宗の僧の合堂とせりとありて  
ありとあり宗凡日本に弘む弘仁七年に紀別高野とせり金剛峯寺を建立し仁明帝  
御宇承和二年二月廿日十二歳して高野公六年の具後延喜廿二年弘法大師  
と謚を宣下しあり 日本小生死不思議の人二人あり生ありて死する空海  
金堂 本尊の大師佛脇士は日月天なり焼失の後 講堂 本尊の大師如來  
等々安ん 豊臣秀頼公の再建に際して佛殿の模範なり 金剛菩薩五大尊  
夜叉神 本尊の千手千眼觀世音聖實僧正の形なり脇士は地藏佛の天  
燒失の後 御當家の再建より塔とせり南の方へ傾くあり 灌頂院 秘密灌頂  
八幡宮 大師神を拜して形外よりあり 八幡社 當寺建立以前の社あり  
寶藏 大師の遺物を藏む 瓢箪堀 寶藏の南の池なり 南大門 二階の橋門  
西の門よりあり 慶賀門 東の門よりあり 蓮華門 西の門よりあり大師入定の  
猫瓦 巽の方の築地の上よりあり築地造営の用

西院開祖弘法大師の影を安んずるは眼康勝の化あり後堂より大日不覺菩薩  
大黒天 西の院の傍に安んずる 愛深明王 寶持菩薩 五寶石 後堂の白砂あり  
三鈷松 西の院のまへにあり大師唐土より帰朝のときに秘教相應の地あり  
松子房松 西の院に 松子房松 西の院に  
松子房松 西の院に

樓雲記曰 元弘三年五月六日彼所攻高麗船に船上に進進  
後醍醐天皇則入洛あり播磨書寫して新田義貞  
より小僧高時滅亡のるを泣きを正成兵庫より  
迎奉る所を勅願する所東寺へ祈奉松子房  
みては松のるを同申すありのり松子房  
前大僧正頼意より松子房

植松むらやりの松を松風の音  
羅城門の舊跡に朱雀通 今の千本  
四塚ありは門に植松天皇平安城造宮の時  
初て建ちしむらやりの松を松風の音  
今東寺の観  
梅城録曰 都良香所城門なる所氣霽風掃新柳髪と詠  
ありしに樹上を舞ありて水消浪洗旧苔鬢とけり  
ありは松子房松の持主と云ふ松子房の自叙あり

萬祥山大通寺遍照心院へ八條柳翁ありは地源經基公の殿舎ありて  
天徳五年小薨のり後け所靈廟と建六孫王授現と崇奉る具後錄  
倉石大實朝公の後室二位禪尼大檀越とあり真空律師叙して  
開山 戒律之論真言等兼学の梵刹とありふりり  
佛殿 本尊阿彌陀佛 本地堂 本尊不知明王  
六孫王社系所經基公の神靈之源氏の祖神ありて 御當家の遠堂あり  
神廟 本社の後 貞純親王社 本社の異  
神龍池 神前の池なり例系より 辨財天社 長を五寸余 誕生水 源満仲公の  
七井の具一ツあり 阿彌陀佛 立像長二尺五寸安阿彌の化あり親孝聖人乃持尊  
の附當寺小持奉る今今門内の 寶冠釋迦佛 方丈より安んずる 實朝公 方丈より  
方丈の庭 廬山の松ありて  
滿仲公誕生地 八條通大文の西あり 歡喜木林 七条朱雀の東ありは所執事  
福大明神森 今東通の東揚梅の小あり 人九塚 坊城通る所の南あり  
由未洋より





鴻原傾城町<sup>（今）</sup>朱雀野<sup>（今）</sup>にありは新上古<sup>（今）</sup>鴻臚館<sup>（今）</sup>の地より中頃<sup>（今）</sup>の觀音寺<sup>（今）</sup>院  
 の封境<sup>（今）</sup>ありて西口の畠<sup>（今）</sup>に堂の口あり又傾城郭<sup>（今）</sup>の万里小浜<sup>（今）</sup>  
 二條の南方<sup>（今）</sup>に所あり具先<sup>（今）</sup>東<sup>（今）</sup>殿<sup>（今）</sup>遊宴<sup>（今）</sup>の地あり天正七年<sup>（今）</sup>系<sup>（今）</sup>二郎  
 左衛門林<sup>（今）</sup>又二郎と浪人<sup>（今）</sup>上訴<sup>（今）</sup>ありて傾城町<sup>（今）</sup>と免許<sup>（今）</sup>せられ一の郭<sup>（今）</sup>と初<sup>（今）</sup>  
 しなり地<sup>（今）</sup>に新<sup>（今）</sup>屋<sup>（今）</sup>と號し又柳<sup>（今）</sup>の雙樹<sup>（今）</sup>ありて柳町<sup>（今）</sup>と稱<sup>（今）</sup>は今の出<sup>（今）</sup>の  
 也具<sup>（今）</sup>より十二年<sup>（今）</sup>と歴<sup>（今）</sup>て慶長七年<sup>（今）</sup>に六條<sup>（今）</sup>の<sup>（今）</sup>今<sup>（今）</sup>の室町<sup>（今）</sup>新町<sup>（今）</sup>西洞院<sup>（今）</sup>  
 五條橋通<sup>（今）</sup>の南<sup>（今）</sup>の方<sup>（今）</sup>に町の郭<sup>（今）</sup>の中<sup>（今）</sup>小浜<sup>（今）</sup>の通<sup>（今）</sup>ありあり三助町<sup>（今）</sup>と號<sup>（今）</sup>に  
 六條通<sup>（今）</sup>あり西洞院<sup>（今）</sup>川<sup>（今）</sup>より右<sup>（今）</sup>橋<sup>（今）</sup>の傾城町<sup>（今）</sup>の入口<sup>（今）</sup>ありては附<sup>（今）</sup>け初<sup>（今）</sup>と今<sup>（今）</sup>あり又  
 町<sup>（今）</sup>又糸<sup>（今）</sup>の南<sup>（今）</sup>西<sup>（今）</sup>例<sup>（今）</sup>醜<sup>（今）</sup>匠<sup>（今）</sup>の居<sup>（今）</sup>を異<sup>（今）</sup>名<sup>（今）</sup>ありけ附<sup>（今）</sup>の古<sup>（今）</sup>ハありて今<sup>（今）</sup>あり  
 又寛<sup>（今）</sup>永<sup>（今）</sup>十八年<sup>（今）</sup>今<sup>（今）</sup>の朱雀野<sup>（今）</sup>へ移<sup>（今）</sup>るは鴻原<sup>（今）</sup>と號<sup>（今）</sup>るあり具<sup>（今）</sup>頃<sup>（今）</sup>肥前<sup>（今）</sup>の  
 鴻原<sup>（今）</sup>と草<sup>（今）</sup>四郎<sup>（今）</sup>といふと一の橋<sup>（今）</sup>あり初<sup>（今）</sup>乱<sup>（今）</sup>るあり附<sup>（今）</sup>け里<sup>（今）</sup>もあり  
 うり騒<sup>（今）</sup>りあり世<sup>（今）</sup>の人<sup>（今）</sup>鴻原<sup>（今）</sup>と異<sup>（今）</sup>名<sup>（今）</sup>ありけり遂<sup>（今）</sup>は附<sup>（今）</sup>け所<sup>（今）</sup>の名<sup>（今）</sup>とせり

都名所記六冊之内

何方より先早述つ返す

此五

川俣白町

谷崎傳太郎

